明治四十一年十二月二十日發行 （明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十九號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可 明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可 明治二十一年二月二十八日

婦人衛生雜誌

第貳百貳拾九號目次

明治四十二年一月

新年會通知

來る一月九日(第二土曜日)午後二時より新年相互の禮を兼ね神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て新年會相催し左の餘興も有之候間御知友御誘引御來會有之度此段御通知申上候也

一 新年の辭

一 餘興

講談　眞龍齋貞水

明治四十一年十二月

私立大日本婦人衛生會

●會　告●

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依賴申上げ候

振替貯金口座　一〇六〇〇番

●本月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十一年十二月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆我等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相率て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠るかざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀りて一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の稱號を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に通知さるべし

●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉し皇族の妃殿下に願ひ出るものとす

●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理す　幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

●第十三條　臨時諸名を員の件

●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす　集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして聽講[illegible]せしむるものとす

●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）

●第十九條　講義演説等は冊子の修總を爲す

●第二十條　本則の改正其他重要の件議定のこと

●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の増減等を報告すべし

●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の印を要するものとす

●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記し報告すべし支會設立後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

●第廿七條　支會には其會限りの役員を置くことを得

●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其會費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

●第廿九條　支會は毎會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に贈附すべし

●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り其姓名及品目を掲載し尙本會雜誌を以て報告すべし

●第卅二條　會費金は受領證を交付すべし尤も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付の爲として別に返信料を添へらるべし（郵券送は一割増）

●第卅三條　會費は東京府下に在りては月額を收金人に差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし

●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は久しく會費を滯納し納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは警告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第二百二十九號
（明治四十一年十二月二十日發行）

講演

火災に對する婦人の責任

消防本部器械課長　土田團之助君講演

今日は圖らずも皆様の前に。消防の御話を致します機會を得ましたが。之れは吾々消防の當局者と致して。誠に悦ばしく存する次第で御座ります。一體消防と云ふ事に就ては。どう致しても火に御縁の深い御婦人方と。能く御相談を遂げませぬと。充分なる結果を見ることは出來まいと。毎々感じて居つた次第で御座りますが。今日までは未だ其機會を得ませぬでした。然るに幸に本會の御勸めに依りまして。始めて此處に此御話を致す機會を得たやうな次第で御座ります。併し衛生會の席上で。消防の講話を致すと云ふことも。少し取付けの惡いやうに思ひますが。進んで尙能く考へて見ますと。是も廣い意味の衛生と云ふことに。取付けられぬことはなからうと思はれます。御承知の通り。火災の爲めには隨分人の命を失ふことも御座りますが。よし命を失ひませぬまでも。之れが爲めには。人の生活の上に急激なる變動を與へますから。それ等の結果として。平易に申せば人の壽命を縮める基となります。故に人の生命を衞る上に付いては。矢張り是等の方面をも。御研究になつて御置きになる必要があらうかと存じます。そこで今日は。火災のことに關して御話いたす積で御座りますが。專門に渉るべき面倒なことは總て省略いたしまして。極く平易なる通俗的の御話を申上げて見やうと思ひます。今本題に入る前に。消防と云ふことに就ての大體を申上げて置きたいと思ひます。

一體消防と申しますと。單に縱ても振りながら。勢ひよく火事場へ驅け出す職である位に。誠に單純のものゝやうに思はれて居りますが。其仕事は單純に見へましても。任務に於ては決してさう容易のものでは御座りません。御承知の通り。其職務の目的とする處は。公共の生命と財産とを災害より救護するので御座りますから。火災の上に於ては素より。尙ほ廣く其手を擴げまして。一般の災害より救護することも。矢張り消防の執るべき職務となつて居るので御座ります。まだ我國では其處まで進むでは居りませぬが。海外に於ては狹くにそれ等の邊まで發展して居る樣に聞き及むで居ります。我が消防に於きましても。それ等の點まで發達する時代は。決して遠くはあるまいと信じて居ります。然るに社會の方方は。また消防と云ふことに。それ程深く御考が進んで居らぬかのやうに思はれます。それのみならす火災と云ふことに就ても。案外苦痛を御感じにならないではないかと思はれます。其實例……實例と云ふのも可笑しう御座りますが。一般の狀態を觀察致しますのに。一度火災にお遭ひになつた方でも。更に建築をなさる場合に。果して火防と云ふ點を。何れほど御進めになつて居りましようか。吾々の見る處では。別段それ等の點に特徵を見出し得ぬので御座ります。大方は舊に依て舊の如しで。甚しきは却つて以前より。危險の度を增して居るものを見受けます。右の次第で御座りますから。どうも火災と云ふことを。餘り念頭に置かれて居らぬかのやうな感も致します。併し實際には恐れて御出でゞ御座りましよう。恐れて尙施すべき道を發見し得ぬので御座りましよう。畢竟平素に深く研究をなさらない結果として。止むを得ぬ次第で御座ります。

或外國人が。日本の人は火災を好む人種ではあるまいか。其證據には。火災の爲めに如何ほど打擊を加へられても平然として居る。それのみか。火事場には火災を愉快らしく見物して居る人が澤山居る。どうも不思議でならんと申したそうで御座りますが。

如何に我慢強い日本人でも。心中決して火災を好む筈は御座りません。只火災と云ふことに深き注意を拂はぬ爲めに。之れに深き注意を拂つて居る外人の眼には。冷淡極まるやうに映するので御座りましよう。實際吾々から見ましても。モー少し何とか進むだ考へを持ちそうなものであると思ふ場合が數々御座ります。若し此儘に過ぎ往きましたならば。殘念ながら我國は。火災國の汚名を永久に取消すことは出來ません。是に反して。社會が今少し注意を拂ふやうになりましたなら。著しく火災の數を減じ。從つて國家を利することが。尠なからざるものであらふと信じます。故に御來會の皆樣方に對して。消防思想の普及を深く懇囑致す次第で御座ります。尚ほ話の順序として。火災は如何にして起るかと云ふことを。少しく申上げて置きましよう。

火災の起るに就ては。何か原因がなければなりませぬ。火より直ちに起るのは申すまでもないことで御座りますが。火が無くして火災を惹起した實例が屢々御座ります。尤も火災となるに就ては。何れに致しても火が出來て物に燃燒を起さすからでは御座りますが。火の無い所から火を起して。而して火災となる場合が澤山御座ります。故に火災の原因は。火より直接するものと。火を起すべき動機を與へたるものとの、二樣から成り立つて居ります。火災の原因中には。小兒の翫弄物の硝子の水玉が。太陽の光線を屈折して燒點を作りましたり。窓硝子の星が矢張り太陽の光線を屈折致しましたり。鼠が蠟燐寸を巢に運むで。それがどうかの機みに摩擦して火を起した。と云ふやうな種類が御座りまして。實に意外の處に。意外の發火を見ることが間々御座ります。斯樣の工合で。火災の發作は實に油斷のならぬにも拘はらず。多くは近視眼的に。現に在る處の火にのみ著眼致しまして。火のない所からは。火災は起らんと信じ切つて居るのが。抑ゝ間違の初めと云はねばなりません。私が或時雙眼寫眞鏡を椽に置きました所が。それへ太陽の光線が當るやうになりますと

其處へ燒點を作つたものと見へまして。忽ち椽板が焦げ出しました。幸に直ぐ發見いたしましたので。反つて良い經驗になりましたが。外出でも致した後であつたなら。大事を惹起したかも知れませぬ。それから消防本部の電話機から發火したことも實驗致しました。之れは電話線に電燈線が接觸して。過度の電流を導いた爲めで御座ります。尤も電話機でも電燈線でも。過度の電流が傳つて來た時分には。其抵抗によつて生する熱の爲めに。自働的に線が切斷されるやうに。安全器が裝置されて御座りますが。其時の狀況は。安全器の線が切斷される以前に。既に護謨の被覆が燃へ始めたので御座りました。箇樣の次第で。火災の原因は。何れの處に窃むで居るか譯らぬもので御座ります。其他襤褸屑を澤山に積むで置いた內より發火し。或は塵芥の堆積より發火し物に依つては水の爲めに發火するなど。實に油斷のならぬもので御座ります。又鐵から發火致したことも屢〻御座ります。鐵から火を發したと申しますと一寸と意外に感じますけれども。是れは工場なとで屢〻見る所の現象で御座ります。卽ち鐵の酸化作用から。其熱を蓄積して。遂に溶解を始むるまでに到るので御座ります。其他器械の摩擦などより火を發する實例は。既に奇らしくも御座りません。

要するに。火は器械的にも。化學的にも起るもので御座ります。物理學上の定則から申しますと熱は「エ子ルギー」の變態であると云ふことになつて居ります。物が物として存在致しますのは。凡て「エ子ルギー」を有する力で御座りまして。其「エ子ルギー」なるものは。熱の方から申しますと。熱の潛態と申しても差支は御座りません。故に凡ての物。凡ての作用は。皆「エ子ルギー」を有しますから。從つて凡ての物。凡ての作用は熱を有し。火を起し。燃燒を起して。火災の因をなすものと見做さねばなりません。右の次第で御座りますから。火災の原因は。普ねく種々の方面に含まれて居るもので。之を未發に防ぐに就きましては。萬般の事物に對して。餘程精

密の觀察を遂げなければなりません。併しながら。我國で起ります火災の原因は。凡て至極單純のもの許りで御座ります。尤も其内には。餘程六ケ敷き原因を含むで居るかも知れませぬが。また科學的に之を調査する程。智識が進むで居りませぬから。複雜の原因も。單純なる原因に看過されて居るので御座りましよう。今それ等の原因に就て。重なるものを申上げて置きます。尤も此中には。直接のものと間接のものとが混同致して居りますが。兎に角それが動機又は媒介となつて。火災を惹き起したと云ふ譯で御座ります。

第一が洋燈。第二が煙突。第三が煙草の吹殼。第四が火鉢。第五が竈。第六が炬燵と行火。第七が取灰第八が燐寸又は附木の焚殼。第九が焚火。第十が焜爐。第十一が風呂。第十二が火消壺。先づ是等が重なるもので。是に次では。爐、消炭、燈用瓦斯、鍛冶工場の火床などで御座ります。其他にも種々御座りますが。何れを見ましても。其發火の動機は。皆僅かの注意を缺いた結果とほか思はれません。此外放火と云ふのも御座りまして。隨分數の多いものになつて居りますが。今日皆樣に御話致しますのは。此凡ての原因中で。男子の監理すべきものが何れほどあるか。御婦人の監理すべきものが何れほどあるかと云ふ事を對照して。御參考に供したいと思ふので御座ります。それ故に『火災に對する御婦人の責任』と云ふ題を出して置きましたが。其責任と申した所で。法律上の責任を問ふ譯では御座りません。只男性女性何れの監督方面から。多く火災を起して居るか。どちらが其火災に對して。深く注意せねばならぬ義務があるかと云ふ意味を以て。申上げるので御座ります。

明治三十六年より同四十年まで。五ケ年間に起りました。東京市内の火災の原因と度數とを申上げますれば。竈より起つたものが百三十五回。其内營業用の竈が六十回。自家用の竈が七十五回で御座ります風呂から起りましたものは三十五回。内營業用のも

女用專門のもので御座りますから。男子が手を付けべからざるものと思ひます。故に之れ亦御婦人の方に願つて置きます。それから暖爐で御座りますが。之れは雙方共用のもので御座りますから。雙方で分擔することに致しました。火鉢の百六十一回。之れも御婦人の方に願ひます。火鉢の監理などは男子に最も不適當のもので御座りますから。煙草盆。之れも御序でに願つて置きます。蚊遣火。之れは連帶責任で御座ります。取灰には種類が御座いまして。竈の下の灰は御婦人の方で御座りましようが。肥料の爲めに態々灰を造りますのは、男子の仕事で御座ります。此肥料を貯へます時分。間々熱の冷め切らぬものを藏置して。再燃を起させ。爲めに火災を起すものが御座ります。故に之れも雙方に責任を負はすやうに致して置きました。煙草の吹殼。之れは男子の方が罪が深からうと存じます。併しながら。煙草盆との關係もあり。客の歸つた跡始末は。御婦人の方に願ふて居りますから。男子の責任ばかりでなく矢張り雙方の連帶に致した方が公平かと思ひます。次は石炭殼。之れは多く工場用で御座りましたから男子の方に致しました。火消壺。之れは御婦人の責任として。御異論を挾む餘地は御座りますまい。炭火。之れも同樣で御座りましよう。それから焚火。之れは男子の方に致して置きます。此焚火にも種々御座りますが。多くは建築場などで暖を取る爲めとか。塵埃の燒却とか。若くは乾燥の爲めに用ひたので御座りますから。消炭。之れは御婦人の方で御座います。蠟燭の點け忘れ。之れは男子に限らず御婦人に限らず。粗忽の人の行ふことで御座りますから兩方へ分擔させて置きました。燐寸附木等の點しかけ。之れも雙方に致して置きます。それから弄火。之れは御婦人の方に致して置きました。皆小さな御兒さん方の仕業で御座りますから。御兒さん方の御養育を願ふと共に。此の御監督も願はねばなりません。線香は兩方に加へました。次は洋燈。之れが難問で御座ります。一體洋燈の取扱は。今日の處男女

何れの方面に歸して居るか。分明いたして居りません。下婢に扱はす處もあれば。食客の職務を致して居る處も御座ります。ズット以前は男子の手に歸して居りましたやうで御座りましたが。中頃から御婦人の方に移り。現今電燈、瓦斯燈の時代になりましては。殆むど其の責任者の區別が付かなくなりました。斯く申す自分共も。洋燈掃除の任務を帶ひた時代が御座りましたが。二十世紀の男子は。中々洋燈掃除に甘じて居りません。故に之れは平等に其責任を分つ方が。穩かであらうと存じます。其代り燈用瓦斯、電燈などは皆男子の方に加へます。石灰、煙火。之れも男子の分と致しましよう。燈火、多くは神佛用で御座りますから。之れは雙方で責任を負ふべき義務が御座ります。油紙其他の自然發火物、火藥、雷汞、竝に藥品。又は鍛冶工場の火床、天然瓦斯、之れは皆男子の部分に入れて置きます。放火。之れは兩方に入れて置きました。何故ならば。放火者としては男子の方が多う御座りますけれども。放火の因て來る處は。決して御婦人に其責なしとは申されませぬ。恨のために爲すもの。盜みのために爲すもの。病的に爲すもの。其原因は種々御座りますけれども。其遠因を探究致しますと。單に男子の罪のみに歸する譯に參らぬ事情か御座ります。依て連帶の責任に致した方が。最も公平な處置であらうと存じます。終りに不明の分竝に其他の雜。之れも平等に分配いたしました。

箇樣に分配致しますと。總數二千九百二十七回の内男子の方面に屬すべきものが一千二十一回半。御婦人の方面に屬すべきものが一千九百五回半。即ち約三分二は。失禮ながら御婦人方の失策として其責を負ふて頂かねばならぬことになります。箇樣に重き責任を負はせ申したならば。或は其樣な面倒なものは。全然男子の監理に移して仕舞へと。仰せらるるかも知りませぬが。それでは男子は甚だ痛み入ります。そればかりか。男子と御婦人方との職分を。全く交換致さねばならぬ事になりまして。頗る妙な世

の中となりましよう。男子は家に在つて是等の監理を司どり。御婦人方は矛を横へて敵前に驅逐すると云ふ樣な。自然に反した行動を執らねばなりませぬ故に御婦人方は。矢張り家庭に在られて。而して此御面倒を見て頂くやうに願ひたいので御座ります。火と御婦人との關係に就て。因緣の淺からざる神話が御座ります。御承知で御座りましようが。祭事考と云ふ古文書の内に。火鎭祭の緣起が御座ります。之に因りますと。どうしても御婦人は火に御緣の深ひことが解ります。彦火出見尊が御產れ遊ばした時の事で御座ります。其母神樣は。父神樣に對して御產所を御覽なさらぬやうに約束せられました。然るに彦火出見尊が御產れ遊ばすと。父神樣は悅びと心配とに堪へませんで。窃つと之れを御覽になつたそうで御座ります。ソコで母神樣は醜體を見られた事を恥ぢて。御自分に御產所に火を放たれ。天津御國へ御歸りになりました。往き々て世見の比良佐加と云ふ處まで參られましたが。御產所に殘された御兒樣(彦火出見尊)の安否が如何にも氣遣であらるるので。思ひ反して御立歸りになり。群臣共を集めまして火を鎭める方法を授けられ。御產所の消火をなさしめたと云ふ事で御座ります。其御授けになつた方法とは。瓠(火避子)を以て水を注ぎ。水菜を以て延燒を防ぐ手段だそうで御座ります。火鎭祭に瓠と水菜を供へる古例は。之に因つたものだそうで御座ります。今日でも秋田地方では。水菜(淡水に生ずる一種の藻)を莚として火防用具と致して居ります。又韓國の土人共は。大きな瓠に水を貯へて火防と飲料とに供用いたして居りますが。之れを見ますと吾吾の遠き祖先が。是等の方法を授けたと云ふことは決して後世の作り言ではあるまいと考られます。兎に角此緣起によりますと。火災を起したのも女性の神樣で。又之れを鎭める方法を授けたのも。矢張り其女性の神樣でありまして。火災と消火とに對して女性と云ふことが始終一貫した關係のある處に。大に味ふべき點があると思はれます。畢竟火災と女性

さは離るべからざるもので。消火と女性も亦離るべからざる因縁を有して居ることが含まれて居るでは御座りませんか。今日の御婦人方は。女性と火災の關係に就ては。宛く祖先の御遺訓を守つて居らるやうで御座りますが。女性と消火との關係は。果して御遺訓に悖らぬて御座りましようか。吾々の氣遣ふ處は卽ち此一點で御座ります。

以上出火原因と其數とに就て。大體を申上げましたから、次に其損害の程度を申上げて見ましよう、此五ケ年間の損害は。三百二十二萬六千百九十五圓と云ふことに計上されて居ります。併し是は或る標準率を以て。燒けた坪數に當て嵌めました價格で御座りますから。只燒失家屋の概價にほか過ぎぬので御座ります。之れだけと致しましても。其內の約二百萬圓ばかりは。市內に御住居の御婦人方が燒かれたので。決して小さな燒き方では御座りません。況んや家と共に燒失致しました家財調度の亡失の如き附近の人々の蒙りたる損害の如き。將來に於ける營業上の頓挫の如き。若くは敎育上の蹉跌の如き。家庭の攪亂の如き。良習慣の破壞の如き。是等有形無形の損害を合算いたしましたならば。其額は實に幾倍に達するやも知れませぬ。殊に之れが爲めに貴重なる生命を失ひましたものが。昨四十年だけでも二十二人。重傷を負ひたるものが三十三。總計五十五人も御座りました。僅かに東京一市だけで既に是程の災害を蒙つて居ります。若し之を全國に押及ぼしましたならば。實に莫大なるもので御座ります。

全國の統計は明治四十年の分がまだ出來て居りませぬ。故に三十五年から三十九年までの。五ケ年間に就て申上げましよう。此期間に火災の總數が。七萬四千九百九十七回。殆むど七萬五千回許り御座りました。燒失家屋が十六萬九千六百十一戶。此坪數が三百六十萬五千九百六十坪。無慘の燒死を遂げた人の數が一千七百九十七人。傷者は實に此幾倍に達して居るので御座ります。此一ケ年の平均を取りますと。火災度數が一萬四千九百九十九回約一萬五千回

に當り。燒失戸數は三萬三千九百二十二戸で約三萬四千戸。此坪數が七十二萬一千百九十三坪。死者は約三百六十人に當ります。而して此燒失家屋の概價は約七百萬圓で御座ります。曩に申上げました如く尚ほ之に關係する損失を加へましたなら。其一年に失ふ處のものだけにても。幾千萬若くは億を以て計算するやうになるであらうと思はれます。加之ならず。親を喪ひ子を亡ひ。哀れ浮世の波風に漂はされて。人生不幸の極みに陷るものも。決して少なくないので御座ります。思ふて玆に到りますと。國家經濟の上よりも。將た同胞扶掖の上よりも。一日も忽せにすべからざる問題であらうと存じます。若し同胞諸君が。志を一にして火防の上に注意して下されたならば。軍備の擴張も。四十五年の大博覧會も。延期するの必要は生じなかつたで御座りましよう。畢竟火の用心と云ふことは。只自己の爲ばかりで御座りません。一度過ては公衆に危害を及ぼすことを考へて。公徳上よりも之が注意を怠つてはなりません。故に社會の人は迭みに相警めて。之を謹しむべきものであらうと存じます。

箇樣の次第で御座りますから。火災に對して責任の厚き御婦人方に於かれましては。層一層の御注意を以て。火の元を警めて頂きたう御座ります。之を警めますに就ても。今更事新しく研究を要するまでのものでは御座りません。要は只皆樣が今日まで。浮雲ないと御氣附になつて居る點を。油斷なく注意して頂けば宜しいので御座ります。而して浮雲ないことは。猶豫なく除くやうに致したいので御座ります。そう致しますと浮雲ない點が段々能く見へて參ります。丁度御掃除が行屆いて參ると。少しの塵も眼に着きますやうに。後ちには充分凡ての缺點を除くことが出來るやうになりましよう。故に竈に對する注意を致した處で。差當りは先づ。其内に火を殘さぬやうとか。焚捨にして他に往て居らぬやうとか。附近に燃易きものを置かぬやうとか。過度の焚方をせぬやうとか。壞はれた儘に使はぬやうとか。極く卑

近の點に御注意下されたなら宜からうと存じます。又煙突に致した處で。掃除を怠らぬやうとか。破れた儘に使はぬやうとか。木部の如き燃へ易き場所に接觸せしめぬやうとか。又價額の廉なるものを望むで不完全の設け方をせぬやうとか。是亦誠に單純なる事項を正しく守つて頂けば宜いので御座ります。詰り油斷なく注意して。猶豫なく改むると云ふことが最も必要のことで御座ります。所がどうも世の中と云ふものは。火防の事ばかりでは御座りませぬ。衞生の上に於ても左樣で御座りましようが。如何に良いと思ふことでも、左右の事情に制せられて。之れを實行し難いことが間々御座ります。又餘り解り過ぎて居る事柄は。解かつた積りで反つて解ぬ點のあるもので御座りまして。後とから考へますと『昔は物を思はざりけり』と云ふやうな憾みを殘すことも御座ります。去りながら火防の事は。只今をも忽せにすることの出來ぬもので御座りますから。左右の事情に拘はらんやうに。思ひ付かれたとき直ちに斷行して頂き。そして又アー火の用心が。疾うに承知して居るなどと。丸込呑みになさらぬやう。充分嚙み分けて御注意を願いたいもので御座います。

序でながら火災に對する。平素の覺悟に付て一言申上て置きましよう。火を失しましたとき。迅速に之を防ぐと云ふことは。平素に其修養が無くてはなりません。永い間の習慣で。火が起る水を注げると云ふことは能く知つて居ります。故に水を酌むで來ると云ふ考は。自然に浮ぶので御座りますが。其他の臨機の措置は即座に浮ぶものでは御座りません。多くは狼狽に時を費して。折角用意してあつた器具も之を使用することを忘れまして。遂に大事に到らしむることが御座ります。例へば立派な消火器を備へながら。態々遠い井戸端の方に駈け出して。其消火器は何等の效をも奏さなかつたと云ふことが御座ります。是等は皆平素の覺悟に缺くる處があるからで御座りましよう。今之れに關しての大要を申上げますが。先づ御住居を御定めになるに付ては。業務上

又は生活上種々なる都合も御座りましようけれども。非常の際に於ての安全を御考にならねばなりますまい。非常と申すと水災震災なども加はりますが東京市内に御住居の方などは。取分け火災に對しての用意が必要で御座ります。故に消防隊との連絡がどうであらうが。附近の水利がどうであらうが。避難の都合がどうであらうかと云ふ問題は。第一に究むべきことであらうと存じます。そして出來得る限り安全を圖つてお置きにならぬと。決して安じて永住の地となす譯には參りませぬ。次は屋内の設備で御座ります。水の便利を圖つてお置きになることは申上げるまでもないことで御座りますが。其水が室内の何れへも速かに運べるやう常に用意致して置かるゝのか必要で御座ります。水道を御引きになつて居る處は。それに管を著けて置くとか。水道のない處では瓶又は桶に適當の水を絶へさぬとか。又は消火器殺火粉の如きものを備へ置くとか。兎に角何時でも直ちに應じ得る用意が必要で御座ります。而して是等の用意が差支なきや否やを。怠らぬやう朝夕注意されるので御座ります。そう致すと急遽の場合でも。自然に足が其方へ向ひます。折角立派に用意されても朝夕の注意もなさらずに。放任して置かれると矢張り急に心に浮むで參りませぬ。次は火を消すことに就てで御座りますが。如何なる火でも水を注ぐと云ふことは宜しく御座りません。大體から申せば。揮發性物の燃燒には。水を注ぐことの宜しくない場合が多う御座ります。就中石油「アルコホル」「エーテル」の如き。水より比重の少ない流動體のものには。堅く水を禁じた方が宜しう御座ります。水を注ぐと燃燒物が水の表面に浮びまして反つて火の面積を大きく致します。又固形體でも。石灰「カーバイト」などの如き。水を抱合して熱を放散し。若くは可燃瓦斯を發するやうなものは。是亦水を注ぐことを忌まねばなりません。此場合には窒息法を應用するので御座りますが。窒息材料は日常材料の内に澤山應用すべきものが御座ります。是等も常に念

頭に疊むで置れまして。此場合には之れをと目算を付けてお置きにならなければなりませぬ。吾々の行ひます消防方法も。第一は燃燒物體の熱を奪つて。其溫度を燃燒點以下に降らしむること（多くは水を注ぐ方法）第二には燃燒物體に酸素の供給を絕ち。窒息せしむること（密閉）又は水蒸汽等を以て空氣の接觸を絕つ方法）第三には燃燒物體と他の燃燒すべき材料とを隔離すること（除去又は遮斷による方法）を時と場合とに依て夫々應用致して居ります。家庭内に於ても。之れと均しき御考へを以て。應急手段を採らるゝとが必要で御座りましよう。要するに如何に家屋の建築が。直接に火の起る憂を避けてあるとは申せ。火災を起さぬとは斷言することは出來ませぬ。先程來申上げました通り。火災の原因は火にばかり直接致して居りませぬから。萬一の用意は決して缺くことは出來ませぬ。殊に煉瓦や鐵材などを以て建築致した家は。一度火を失しますと。木材の家のやうに容易に消すことは出來ません。畢竟不良燃質物と稱するものは。高溫度にあらざれば燃燒を起しませぬから。それが一度燃燒を起しましたなら。其火熱は中々猛烈で。從つて他に及ぼす災害も深いので御座ります。終りに皆樣方に希望致しますのは。火の恐るべきものであることを。家庭教育に加へて頂きたいので御座ります。兎に角火と云ふものは。吾々人間に必要缺くべからざるもので。其有益なることは今更申上げるまでも御座りません。畢竟吾々人類が斯樣に發達致しましたのも。火の御蔭げに因るものと思はれます。然るに有益なるものゝ反面には。有害なることの潜むのは數の免れぬ處で御座りまして。凡て世の中のことは表裏の兩面を有して居ります。決して一面のみを見て安ずることは出來ません。宜しく裏面の不利益を厭ふて。表面の利益を活用すべしで御座ります。此則なければ萬事失敗に了ります。人の生死も。風の吹くのも。花の咲くのも。暑いも寒いも。苦あれば樂あるも。皆此表裏の作用が相轉換致して居るので御座ります。

之れが卽ち宇宙の活動で。之れ無ければ宇宙は滅亡いたします。故に便利なるものゝ反面に危險を伴ひ有益なるものゝ反面に有害を伴ふことは。自然の結果と思はねばなりませぬ。火は只今も申す通り。人生に至大の幸福を與へて居ります。故に其反面には至大の危害を伴ふことは當然で御座ります。然るに社會の人中は。其便益の一方にのみ馴れて。反面の怖るべき點には左程に心付きません。畢竟朝夕之に親むで居ないからでも御座りましようが。決して之に心を許すことは出來ません。若も之れが只今初めて發見されたものであつたなら。人の驚怖は如何で御座りましよう。隨分世の中を騷がして。警視廳なども。嚴重な取締規則を發布し。一定の資格がなければ。之を扱はせないと云ふやうなことにもなるで御座りましよう。故に將來之れが利用の方の進むに從ひ。益々除害の必要を感ずる次第で御座りますから。家庭に於ては力めて其敎育を施して頂きたいので御座ります。今日の人の火防思想の冷淡であるのも。畢竟火に狎れ過ぎて。除害の敎育を怠つた所以で御座りましよう。其結果として。屢々火災に蹂躙せられても尙ほ覺らず。之れを飽飮し之を過食して遂に中毒症に陷り。慢性病となつて。健康體の人から見れば。堪へ切れぬ程のことを。左程に苦痛に感じぬやうになつたのだらうと思ひます。現代の人に對して之を根治することは。或は既に遲いかも知りませぬがせめては。此病根を子孫に遺傳させぬやう是非とも家庭に於て豫防して頂かねばなりません。そして將來には健全なる國民と。國家を造るやうに致したいので御座ります。

箇樣の次第で御座りますから。火防上に就ては將來皆樣方に。十分なる御盡力を願つて。先づ未發に之を拒ぐやうに致し。吾々消防の當局者は亦。萬一の既發に對して奮つて之を鎭滅するやうにいたしましたならば。其國家に貢獻する處も決して尠なからざるものと存じます。諺に『殖產興業は積極的に國家の富を作り。消防は消極的に國家の富を作る』と云

ふことが御座ります。如何に殖産興業の道を勸めました處が。一方に年々莫大なる消耗を來しましては勞多くして效尠しと云ふ結果を見ねばなりません。現に今日の割合では。戸數二百五十戸に對して。一年一戸を燒失して居ります。故に國家は毎年二百五十分一の資産を煙となして居る譯で御座ります。之れを同胞五千萬人に對照すれば。二十萬人の人をして不生産的に生活せしむるも同一で御座ります。國家の損害決して尠しと云ふべからずで御座ります。
以上述べました處を簡めますと。御婦人方に火の用心を嚴重にして頂き。而して現に失ひつゝある國家の大損害を喰ひ止めたいと云ふ。希望にほかならぬので御座ります。
尙火防上の施設に就き。部分に亙つて御話を致しますと。種々申上げたいことも御座りますが。今日は只大體のみを申上げて置き。他日又機會を得ましたなら。竈の裝置とか。煙突の構造とか。洋燈の取扱ひとか。實驗上の御話を申上げて御參考に供したいと思ひます。甚だ淺薄なる御話を致して。皆樣の御淸聽を汚しました段は。幾重にも御詫を致します。今日は之れで御免を蒙ります。

叢談

運動と姿勢

醫學士　X　生君

○常に正しく姿勢を保つてゐなければ、甚しく身體の健康を害するものである。然るに本邦の婦人には一向姿勢のよし惡しに頓着しないものがある、歎くべきの至りである。我が讀者諸姉には斯かる處に十二分の注意を拂はるるは云ふ迄も無いが、尙は自ら顧みて苟も惡しからんと思はるゝ姿勢があれば、相當の運動方法によりて矯正せらるゝやうに願ひたい。

○無論最初から急激に運動しては、所謂角を矯めやうとして牛を殺すやうな始末になるから、漸進主義を守り、徐々にその度を高めるやうにせられたい。而して是等の運動をするには成る可く輕裝に出でたちて、無益に力は消費しないやうにしたいのである。

○右又は左の肩が斜めに低下り、他方の肩が反對に怒り立つて居るのは。ハイカラ風の吹きすさんでゐる當世には餘り見受けない所であるが、私が始めて笈を負ふて東京へ出た十數年の昔しには、道行く學生中に往々見受けた處であつた。婦人方には著るしい『肩下り』と云ふものは無いが、端座して裁ち縫ひを事とする人。バイオリンや三味線の藝に熱中する方には、習慣性の肩下りと云ふものが少くない。

○右の肩の下がつて居る者は、左右の手を首背若しくは臀部にあてゝ徐かに體を左方に屈める。若し又左肩が下がつてゐれば兩手は前と同様の部分に當て徐かに體を右方に屈める。次に兩腕を出來るだけ高く頭の上の方へ上げ、兩膝を曲げないやうにして、徐かに體を前方に屈め、兩手が地に接くまでにする。最後に徐かに身を起して直立の姿勢をとる。一日數回づゝ此運動法を反覆して行へば、遂に兩肩が水平になる様になる。

○平素前方へ屈み勝ちの人、例之ば熱心に琴の調べを奏でるか、低い机に向つて燈火にのみ親しんで居られる人には、脊柱が前方に曲つて所謂『駄背』となる事がある。駄背を矯正そうとするには雙腕を前方に於て組まぬやうにする、兩肘を後ろの方へ引き或は雙手に重物を提げ之を體から離して後方に保つやうにする。反り身になつて胸を張り、兩腕を後ろの方に伸ばす。

○背部の筋肉を發達させるのは身體の姿勢を良くする所以である、之をするには兩手に輕い錘を持ち、之を自分の前へ置く、八寸程兩足を離して起立ち、三回程徐かに深き呼吸をする。次に體を屈めて錘を取り、徐かに起ちて直立し、兩手を體の兩側に觸れ

しめ、再び徐かに身を屈めて錘を以前の所に置く。之れを數回反復す(一)。

○又兩手を首背に組み、頭と腰とが水平になる迄徐かに體を前方に屈め、一、二、三、四と十迄數へ、かくて體を元の直立の姿勢に復す。之れを幾度となく反復へす(二)。

○腰を廻轉軸として體を前後左右に曲げる、腰から下は常に直立の姿勢を取つて動かさぬやうにする(三)。

○頭の上を超して左の耳に觸れる迄右の手を延ばし顋を擧げ徐かに深呼吸をしながら室内を歩き廻る。次に左の手を同様に右の耳に觸れる迄延ばし、同様に室内を歩き廻はる。歩行の距離は漸次に增すやうにする(四)。

○テニスは背筋並に腰筋を發達させるに良い運動である。初め一方の肩で或る重い物を擔ひ、次に他方の肩で之を擔ふ様にするのも良い。

○足の爪先きで走るのも良い運動である。

○片足で跳ぶのも背筋の運動となる。

○胸部の狹いのは肺病の素因となる、之を廣くし之れを強壯にするには種々の運動法がある。第一姿勢を良くする。第二肘を曲げずに腕を高く上げ、低く下げ、前へ出し、後ろに引き、或は左右に廣く伸ばす。第三床の上に仰臥に臥し、兩手が床に觸れる迄雙腕を頭の上方に伸ばし、徐かに深呼吸をする。次に肘を曲げぬやうにして兩手を出來るだけ上方に上げ、又之を下げて兩股の側面にあてる。之れを數回繰り返へす。第四、顋を出來るだけ高く上げ、兩腕も顋に沿ふて出來るだけ高く上げる。深呼吸をして肺に空氣を充分入れる。次に息を吐かぬ様にし肘を曲げずに、急速に兩手を體の兩側におろす。之を幾度でも繰り返す。

○婦人は胸で許り呼吸をしていかん、腹から呼吸しなければ充分深く充分多く空氣を吸ひ込む事が出來ぬ。之がためには腹部の筋肉を強壯にしなければならぬ。腹部の筋肉を強壯にするには種々の運動法が

只脣や眼瞼の裏の様な軟な粘膜で被はれた處と、爪や手掌、足の裏の様に皮膚が固い角質に替つて仕舞つた處と位なものです、毛は斯樣に人體の樣々な部分に生えて居ますが、夫が其生て居る場所に從つて、身體を護る役目の上に夫々亦異つた働きを持て居るのであります、頭の髮は暑さ寒さが急に厳しく腦に反應へぬ樣に和げ且物が當りなどする時に怪我せぬ護りとなり、眉や睫毛は塵や埃の目に入るのを防ぎ、腋下などでは其箇所の互に擦合はぬ樣に且又汗などが餘り甚く流れぬ樣にと云仕組になつて居るのであります。

毛髮は其生えた箇所によつて夫々斯云ふ風に特別の實用的な役目を持て居ますが其外に或は寧ろ之よりも一層大切な目的を持て居るのであります、夫は毛髮が最も美しい最も艶かなる自然の裝飾となる事であります、房々として澤やかな頭髮、新月の樣な美しい曲線美を描く眉、視線に潤ひと和きとを添へる長き睫毛、何れも婦人の美を飾る最も尊い裝であります、御婦人になくて男子にばかりある鬚髯や何かの事を考へましても是は如何しても生理的實用以外に尙裝飾と申す大切な役目を持て居る事が想像できます、漆の樣に澤々した頭髮と白百合の花瓣の樣に美しい肌合とは天が特に婦人に幸した類なき尊い寶物であります、希臘の詩聖ほーまーが、其詩に麗人へれーなの事を書きました條は、世界で最も美しい人を最も美しいペンで書現はしたものとしてありますが、其實へれーな自身に就ての記載は、彼女が『白き腕と美しき髮』とを持て居た事が書てあるに過ぎませぬ、然かも讀行くうちには讀者の胸に、氣高く美しいへれーなを躍如として描き出す所以のものは、全く詩人の靈なるペンの力に外ならぬのですがほーまーは是程力を籠て書いたへれーなの誠に簡單な形容の内にも『美しき髮』と云ふ辭を省き得なかつたのを見ても、頭髮が婦人の美を飾る點に於て何の位大切であるかと申事が分ります、御婦人が毛髮の手當に色々苦心をなさるゝのも美を生命とする御婦

人に取つては誠に無理ならぬ事と存じます、是は獨り御婦人許に限りませぬ、西洋でも古代の一大帝國を興した大豪傑しーざあーですら頭髮の薄いのを日頃から大變氣に致しまして、四十を越してからでも若し予の頭に毛を生やす事ができたならば此帝國の半ばを割て與へても苦しくないと申されたと云事であります、常には嚴めしい物の具に身を固めて鐵の馬を飛ばし、血潮の流れ、屍の山さへも事ともせぬ荒武者さへもこれですもの、況してや優しい御婦人達が毛の美に就て色々と苦心をなさるのは誠に尤もな事であらうと考へます。

先づ毛髮とはどんなもの乎と云ふ事をお話致し次に其の手當や何かに就て少許御話しを致しませう。

毛髮とはどんなもの乎　偖頭髮は一體どんなもの乎と云ふ事は極て平凡な問題の樣であつて其實仲々難かしい問で、まだまだ研究の行き屆かぬ所がどつさりあるのです、ざつと申上ますと毛髮は皮膚の一部が變化したもので山吹や燈心を採る藺の樣に三つの層から出來て居るのであります、一番外側は小さな鱗形のものが重り合つてでき、其次には皮質層、其又內側には毛の中髓があるのであります、最も此中髓は極太い方の毛に許りあつて細い毛にはありませぬ、又皮質層の部分の細胞の間には澤山の色素が粒になつて存在し皮質層と中髓との中には小さな空氣泡沫があるのです、其色素の濃さ淡さ、及び空氣の泡の多少によつて毛髮に色々の色合ができ或は黑毛赤毛となり又茶色栗色等を現はす樣になるのであります。次に毛髮の植つて居る所謂毛孔は之も皮膚の一部が凹んで出來たもので、其向きが皮膚の表面に直角にならず何時も一定の方向に少しすじかいになつて居るのであります、ですから玆から生出て居る毛髮も自然斜に生える理であります、毛孔の底には一寸小高くなつて居る處がありますが之を毛母と申します、而して毛根の端の少し凹んだ處が丁度此毛母に緻密と嵌込んで居るのであります、毛母は毛髮の成長と榮養とに誠に大切な點であつて玆から毛

が追々成長つて上の方へせり出すのであります、而して毛が一定の壽命を終りますと毛の根の端と毛母との連絡が緩んで毛の根が毛母を離れると始めて脫毛となるのであります、又此毛母には神經や血管が澤山にあつて之から毛の內に其養分を送り込むのであります、併し短かい毛髮ならばとにかく、二尺も三尺もある長い毛髮では果して其尖端迄養分が行き渡るものであるかどう乎と申す事はまだ充分研究せられて居りませね、佛蘭西では毛の養分は其尖端まで及ぶものであつて毛の尖を切つた儘にして置くと可惜養分が其處から外に洩れて仕舞と云說があつて蠟燭の火で毛の尖を燒き其開いて居る口を燒き塞ぐと云ふ人がありますが、毛尖を縮らして飾とするのならばとにかく、榮養をよくするために毛を燒くと云樣な事は餘り利目が在相にも思はれませぬ、毛孔の周圍には內外二層の是も神經と血管に富める毛鞘と申す物があつて毛を包んで居るのであります、無理に毛を引き拔きますと毛の根に白い物が附着て取れますが之は毛母や毛鞘が一所になつてちぎれるのであります、夫が一定の壽命を終つた脫毛になりますと毛母や毛鞘との連絡がなくなつて居る爲に白い物も附かず痛を覺える事もなくて獨で拔けるのであります。

其外毛に附屬致します器關には、毛孔の中程に二つから五つ位の、膏を分泌する小さな囊が附て居まして、之から分泌する膏は毛の根を養ひ且夫を柔軟にし、又毛の地の皮膚を潤澤にする勤めをするのであります、其外毛の斜になつて居る後側には何時でも一條の極々細い筋肉があつて眞皮の所から膏の囊の下を潜つて毛鞘の外側に附着て居るのであります、而して此筋肉が縮みますと斜めに成て居た毛髮が眞直に突立つので、寒さや忌やな物に出逢た時、慄然として身體中の毛が逆立つのや、甚く情に激した時に怒髮冠を衝くなど申すのは皆此筋が縮むために起るのであります、獨り鼻や頰のむく、、毛と睫毛と鼻毛とには此の筋が無い相でありますから寒くても膩がた

つてもびくとも仕ないのは此等の毛ばかりであります。
人體で毛の始めて生えるのは母の胎内に宿てから四月目で、此時初めてむく毛が少許できるのであります、頭に毛の生えるのは五箇月目からで夫が段々生長して十箇月經て産落る時分には大抵三四仙迷位迄延て居ます、お産當時は毛髮は一體に光澤が悪く、且胎内に居た時分の姿勢で頭が何所かに強く擦れてでも居ますと其處丈毛が薄く見苦くなつて居る様な事もありますが、後には追々眞の美しい毛と拔換つて澤々した髮となるのであります、又産れた當時は眉と上腕とに隨分長い產毛が生えて居る事かありますが之も日が經つに從ひ何時とはなしに無くなつて仕舞ふものです。
大人の頭髮の長さは平均一尺五寸から五尺程の間で其内にも俗にかいヽいヽめのお位まで逹くのが一番普通の長さだとしてあります、但し我國の御婦人の中にも之よりもつと長い髮の方は珍らしくありませぬ、又中央あめりかに居る或人種の婦女では踵迄も引摺様な長いのもある相であります、又頭の髮の太さは〇・〇〇七から〇・〇一七密迷位であります、其形も頭髮では大抵圓い柱の形を仕て居ますが、頭の外の毛髮では處によつては多少扁平く、又角張つた形をして居たり或は縦に深い溝が入て居たりします、又當前の毛では根から尖へかけて一様に順に細り行くのですが、縮毛や癖毛では一條の毛の中でも細い所と太い所とが入交つて居る様な事があります、或生理學者の計算によりますと頭の毛の總數は、毛の濃いと薄いとで大變な差はありますが普通の所で平均八萬本から二十萬本の間だと申す事です、其内でも一番濃い所が顱頂部で、其次が後頭部、前頭部などの順序であります。
毛髮の延方は案外誠に遅いもので、御婦人の毛髮では一ケ月に平均十二密迷即ち曲尺で三分五厘から四分位しか延びぬのです、夫れに一條の毛髮の壽命は普通に千六百日即ち四ケ年半許でありますか

ら、毛の脱け落ちる迄にはざつと二尺餘に成る勘定でありますが、夫よりも猶長くなるか或は脱け落ち樣の早い遲いは夫々其方の榮養の如何による事であります、恁云風に毛髮にも一定の壽命があるのですから、其年限に達した者は自然と脱け落ちて仕舞ひますが、あとからあとからと新しい毛が生え出るので少も差閊がないのであります、中には髮を結ふ時や顏を洗ふ時に脱毛の出るのを頻に氣にせらるる方がありますが、脱毛は生理的にも或程度迄は誰にでもあるので決して御心配には及びませぬ、毎日拔ける毛の數は十六歲から二十歲迄は二三十本から百本位、二十歲から三十歲迄の方では三十本から五十本六十歲以上の方では百二十本以上だと云ふ事です、畢竟年を取るに從ひ脱毛の方が追々に多く成るのであります、併し夫れも身體の榮養が良く毛の手當の充分行屆た場合には脱毛にならずもつと長く保存せられる理であります。

毛髮は亦其方の發育、榮養の模樣と誠に密接な關係があるものです、小供が生れた時に其小供の頭髮の模樣によつて發育が充分であるか如何乎と云樣な事も推測ができるのです、又原因は充分解りませぬが毛髮の發生は齒とも近い關係を持て居るのであります、先天性禿髮症と申して性來頭に髮のない人には同時に齒の發生が著しく不完全であると云例もあります。毛髮と榮養との關係は玆に改めて申上げる迄もありませぬ、重い病に罹つたとか總て甚く榮養を損つた時には急に脱毛が多くなり頭髮が薄くなる事は皆樣もよく御承知の事であります、其外神經痛だとか神經痲痺症だとかで體に障りができて居る時には矢張其惡い方の側許が髮が脱けたり或は早く白髮になつたりする樣な事があります、併し亦一方から申せば極めて強壯な人でありながら若い内から頭が禿げたり、又極めて羸弱い人でありながら頭髮の誠に濃い方もあるので一樣には申されませぬが併し榮養と毛髮との間に一定の關係のある事は爭はれぬ確かなる事實であります、或る學者の研究によります

とちぶすや肺炎の様な急性症に罹つて急に身體の榮養が衰へた時には、同時に毛髪の太さが細くなつて跡に縊れを殘す相であります、ですから一箇月に延る髪の長さ、縊のある箇所とを計つて兩方比べますれば、凡そ何程以前に其病氣に罹つたかと云事が分る位だ相であります。

其外毛髪と精神作用との關係も是又榮養との關係に劣らぬ程密接なものであります、心を使つた後では脱毛が多くなり、又一體に腦を使ふ事の激しい方は早く白髪や禿髪になる傾向があります、諺にも甚く心配をすると一夜の間に白髪になるなど申す位でありますが、又甚く情に激した後では毛髪が縦に裂けて居たなど申す話もあります、或老練な女髪結の話に、永年の經驗で、其毛髪の癖や手觸で大抵其方の氣質や、其時の氣分が分るとか申します、其他まだ早い間から其方が御懐胎になつてる事を言當てる樣な場合もある相であります、併し是は一種の匂で嗅ぎ分けるのだ相ですから、生理的に或は懐胎と頭髪の皮脂腺との間に何等かの關係があるのかも知れませぬ。

髪洗ひの注意　毛髪を洗ふ事は毛の清潔を保つ爲には誠に結構な事であります、前にも申上た通り毛の根からは絶えず脂肪澤山な膏が泌出て居り、夫に初中生え替て行く頭の皮膚の剝たのや、外から入つた塵や埃が一所になつて俗に云ふ頭の垢となつて毛の根を埋め、其内でも甚く脂肪質の方でもあるか、或は久しく髪を洗はないで放棄て置きますと、夫等の脂肪質が腐敗れて分解致し誠に不愉快な臭氣を放つ樣になります、是は只其臭ひが惡い許でなく甚しく毛の根を刺戟して毛の發ひを惡くし、又其不潔な爲に自然他の黴菌や何かが寄生し易く、從つて又毛の脱ける樣な色々の皮膚病の原因となる事がありますですから、毛髪は時々丁寧に洗つて清潔にして置く事が大切であります、夫れでは髪を洗ふのに幾日目位がよろしいかと申しますと、先づ三週に一度位の所が最も適當であります、之よりも激しく洗過ぎ

ますと、頭の清潔になる事は誠に結構ですが其と同時に、毛を柔かにし光澤を良くする油氣の入用な分量迄が洗ひ落されて却て毛髮の爲にはならぬのであります。

次に髮を洗ふのには何が一番よいかと申しますと、髮を洗ふ物も澤山にはありますが、其內でも最も古くからそして又最も廣く用ゐられて居るのは矢張ふのりと麥粉夫に鷄卵位なものであります、其外近來色々な名前を附けて賣出して居る髮洗粉は殆ど數切れない位澤山にありますが、何れも石灰や曹達や又は石鹼の粉などが其重な成分となつて居るのが多い樣であります。

今上に擧げた洗粉の內で何れが毛のために一番爲めになる乎と云ふ事を申述べる前に、脂肪氣は一般に如何して洗落されるものである乎と云事を一寸お話する必要があります、元來物に附て居る油氣を洗落すには三通りの方法があるのです、其第一は油のよく溶ける液、即ち揮發油の樣なもので洗つて溶かし去る法で、第二には石鹼や曹達の樣に油を化學的に分解して水に溶け易い性質のものとするのであります、最後に第三の法はふのりや鷄卵の蛋白の樣に粘氣のあるもので洗ふので、是等のものは脂肪と擦り混ぜると其脂肪を極々微細な粒に分ち、而して誠によく水に混る樣にする性質を持て居るのであります　ですから油氣のある所へ粘液質の物をあげてよくすり交せ、後で水にて充分洗ひさへすれば其油氣は奇麗に洗ひ去られる理であります、藥局で油の入つた水藥を拵へます時分に、水と油とを只混せた許では油だけ上に浮上つて如何しても水に混りませぬから其時には先づ油をあらびあ護謨の溶たのゝ中に入れよくすり混ぜてから追々に水を差加へるのであります、斯うすれば前に申した樣に肉眼では見分られませぬが、油が極々小さな粒に分れて丁度お乳の樣になつて水中に一樣に溶けるのであります、頭髮の油氣をふのりや何かで洗落すのは畢竟此理に外ならぬのであります、單に油氣を洗落す許でしたら總ての

洗方のうち、石鹼を用るのが一番奇麗になりますが併し頭髮では度々申上た通り毛の特質の脂肪氣だけは是非必要であるのに、石鹼で洗ひますと只毛髮の表面に粘着して居る油氣許でなく、毛髮に大切な油氣迄も持て行かれるので、夫が爲め軟らかに彈力のある生地を損じて毛には油氣がなくなりすぎ、さわ〳〵として光澤もなく擦切れたり折れ易く成たりする患があります、之に反してふのりの樣に粘氣のあるもので洗ひますのは、石鹼や何かの樣に化學的に働くのではありませぬから皮膚や毛の生地にある油氣迄も根こそぎ持去ると云樣な事はなく、只遊離して居る餘分の脂肪分だけを洗落しますから毛髮に取つては此方が遙かに適當した洗方だと存じます、ですから成分のよく分らぬ餘り信用のできぬ洗粉などをお使ひになるよりも寧ろ性の知れたそして働きの穩かなふのりや蛋白などをお使になる方が安全であります、只ふのりの樣な總て粘氣ある物で洗ひますと、後の水洗ひが少し面倒でありますが之は洗汁が少しも濁らなくなる迄充分丁寧にお濯ぎなさらなければなりませぬ、斯云ふ風に平生はふのりなどで洗つて、二月か三月目に一度位石鹼で激しく洗ふ樣にすれば最も充分な方法であると存じます。

洗ひ方は第一に微温湯で毛髮を潤し、夫から髮洗液を頭の地から毛の尖端まで丁寧に指頭で揉込で、最後に又微温湯で充分毛洗液を洗落すのです、夫にはお湯を洗面盤や何かに取るよりも、如露か蛇口の樣なものから打たせて洗ふ方が便利でもあり又其方が毛髮も充分に洗淸める事ができるのであります。

昔からお產後二十五日以內に髮を洗ふのはよくないとしてあります、お產許でなく長く煩つて衰弱した時でも實際髮を洗つてから容態がよくなくなつたと云樣な事があります、併し是は髮を洗ふ事が惡いのではありませぬが其樣な容態が一寸體を動かしてもよくない位なのに、髮を洗ひます時には隨分長く頭を下げて窮屈な思を致すので自然に頭痛を起したり眩暈がしたり致し、特に毛髮の乾く時に寒さを覺え

るので感冒などを引き易いからであります、ですからお産の後や病後に髮を洗ふには一應醫者に御尋ねになつて愈〻差閊へがないと決まれば、頭を長くさげて居るのはよくありませぬから髮洗汁を成るべく濃く解き夫を丁寧に揉込み、只微温湯で清め洗ひをする時だけ屈む樣にすればよろしいのです、洗つて仕舞つた髮を乾かすのに西洋では蒸氣や瓦斯の熱で乾かすのもある相ですが、是は矢張自然の儘にして置て乾かす方が髮の爲によろしいのです、而して頭の生地迄も充分乾きが通る樣に致しませぬと後でふけが多く成たり痒味を覺えたりして不都合であります、西洋では洗髮の乾く迄に薫の高い薔薇の花瓣などを毛の中に捲込で置て、其薫高い移香をお化粧の一とする樣な事もある相です、其外西洋では又洗髮の乾くのを待て居る間に、額の生際、耳の上など兎角毛の薄くなり易い箇所をまつさあーじをする風がある相ですが、此は毛の發育に刺戟を與へて多少の利目のある事と考へられます、其方法は先づ兩手で其部の頭髮を握つて毛の根本まで搔き分け、頭の生地を指頭で靜かに揉むのであります、も一つ之も佛蘭西あたりで行はるるのでありますが、髮を洗つて充分乾切た後で極めて細い篩に懸けた玉蜀黍の粉末を頭の地に振り懸け、暫く其儘に置た後で軟いぶらしか齒磨き楊子の樣なもので、毛の根を分けながら少しも粉の殘らぬ樣に丁寧に掃き落すのであります斯の如くに致しますと毛の地の乾きが充分となる許でなく其色澤までがよくなると申す事であります、頭の地や毛の根の濕氣は粉の爲に或は早く吸取られて乾きが充分になると云樣な事は事實かも知れませぬが後で頭の地に散て居る粉を殘りなく取去ると云事は隨分骨の折れる事かと存じます。（以下次號）

女子の身體（二）

三田谷啓君

骨盤は、前にも述べたる如く、左右の髖骨、薦骨、

及び尾骶骨の四個より成つて居る。

髖骨は、左と右とが向ひ合せになつて、骨盤の前方と側方との壁をなして居る。

髖骨はもと、三個の骨よりなるものであるが、成年期に至りて硬く癒合してしまうのである、三骨の骨とは、腸骨、坐骨及び恥骨である。

腸骨は髀臼（上腿の骨と繋がつて股關節をなせる部分）は上後方にある。

坐骨は、髀臼の下方に在り、骨盤の側壁をなして居る。

臀部に手を觸るれば、筋肉の下にあたりて、突つた骨のあるを知るべし、これ坐骨の結節と名けらるるものである。

恥骨は髀臼の前方に位して、左右恥骨の合する所は恥骨縫際と名ける處である。

薦骨は、其形状三角にして、上端は開き、下端は、尖つて居る、小兒の薦骨は、五個の椎骨よりなれるものなるが、大人になりては、これが癒合して一個となつて居る、此骨は、骨盤の後壁を形成するものである。その上端は腰椎に接し、下端は尾骶骨に接して居る。

尾骶骨は、薦骨の下端に接し、四個の椎骨より成れるものである。矢張りこれも骨盤の後壁の一部分をなせども、壓すれば移動するものである。

以上述べたる各種の骨は、靭帯によりて、連接せられ、かくして一の骨盤をなして居るので、夫々の骨が集まつて一の容器をなして居るので、大工が板をつぎ合せて箱を造るのと同じことである。

斯くの如くにして形成せられたる骨盤は、大骨盤と小骨盤とに區別せらるゝのである。

（以下次號）

眼の傳染病（續き）

東京醫科大學　神尾驥子君

風眼

風眼は昔から人の知つて居る通り、眼の傳染病中

最も恐しい病氣でありまして、一度此れにかゝりましたならば、再び全治する事の出來ないばかりでなく、必ず其眼はつぶれ、療治を怠る時は兩眼共に其の明を失ふものであります。故に昔から非常に恐れて居りました。

風眼とは漢法でいふ名でありまして、我々の方では之を膿漏性結膜炎と申し、結膜の化膿する病であります。風眼は其の重症の場合を指したものでありす。此れは痳病の病毒である一種の黴菌が眼の結膜に寄生し、盛に繁殖し、爲めに膿を成生するものであります、昔から痳病の膿が眼へはいると盲目になると申しましたのは此の爲めであります。

膿漏性結膜炎は、トラホームと同じ樣に、黴菌が結膜について發育するのでありますから、其症狀も大體トラホームに似て居りますが、トラホームの樣な顆粒は出來ません、その代り現象は非常に急激で猛烈でありますから、患者の受くる苦痛はトラホームの比ではありません。眼瞼は勿論、眼球も甚しく赤く、且つ腫れあがりまして、丁度桃の實を瞼につけた樣に見えます。そして灼くが如き、又錐物のはいつた樣な痛みはたえず患者を苦しめ、殊に此れにふれた時の痛と申しましたなら、其の烈しい事殆ど堪えられない程であります。甚しくなりますれば眼ばかりでなく、耳の近邊迄も赤くなり、腫脹し、痛みも亦甚しく、全身は多少の寒けと共に、熱が發生いたします。

第二期に入りましては、丁度トラホームの第二期の樣に膿が流れ出ます、然し其の膿はトラホームの膿とは大に趣を異にして居ります、即ち牛乳の樣な少しく黄色を帶びて濃い膿が甚しく腫れて垂下して居る眼瞼の間から滾々として流れ出ます。時としては睫毛が膠著して膿の流れ口がなくなり、瞼の中は全く膿で充され眼瞼は強く緊張し、恰も瘤がぶら下つて居る樣になります、此時は痛みも甚しく、又周圍の人に對して竝びに自己に對して最も危險な時であります。

周圍の人に對しての危險といふのは、はりつめた眼瞼力破裂する時でありますから、その際眼の中に充滿して居つた膿が急に飛び散り、醫者又は他の周圍の人の目にうつる事があります、此の膿は非常に傳染力の强いものでありまして、一度眼の中に飛び込みましたならば、それこそ萬事休すでありまして、最早悔ゐても及ぶ事ではありません。

此の膿は肉眼で見た所では、單に黄色の濃い汁でありますが、顯微鏡で檢査して見ますと、無數の痳疾菌が居りまして、普通の痳病患者の尿道から出る膿と同じて、非常に恐しいものであります。此の膿は眼に對して危險であるばかりでなく、無垢の小供殊に少女に對して痳病を傳染する原因となる事があります、故に大に注意せねばなりません。

患者自身に對する危險も甚しいもので、先づ第一には始め一方の眼にばかり起つたものが、幾程もなく健康な方へも傳染して兩眼をおかす事であります、成年者の膿漏性結膜炎は多く右側に始まるものでありますが、此の時期に入りますると同時に左の眼にもうつりまして、右と同じ狀態に陷ります。

黴菌は元來結膜に寄生するものでありますから、失明する危險はトラホームと同樣に、左程甚しいものでない筈ですが、瞳孔を蔽ふて居る透明なる角膜は其の周圍の結膜から養はれて居るものでありますから結膜が甚しく害せられたる時は、其の榮養は甚しく不充分となり、その爲めに透明な性質は變じて不透明となり、更に眼瞼の摩擦、膿の刺戟等の爲めに糜爛し、甚しきに至りては穿孔を作り虹彩瞳孔などが流れ出でゝ失明するか、或は膿が眼球の中に入りて全眼球は悉く膿となります、或は又角膜全體が你の樣にとけてしまいまして、眼球の內容が悉く流れ出すものもあります。漢法家の風眼と申しましたのは主に此の重症なる場合であります。

幸にして角膜に大なる變化を起す事なく失明を免れましたならば、結膜の充血も、腫れも、化膿も漸漸衰へて治癒に向ひますが、或は角膜が曇り、或は

ものであります、獨逸では總ての盲目者の中初生兒膿漏の爲めに失明したものは實に一割に達するといふ話しであります。然し此は今より十七年前クレーデと稱する產科醫者が一の豫防法を發見いたしまして、今では獨逸では殆ど見る事が出來ない位であります、我國では新式の產婆は皆此法を用ゐて居りますが、舊式の產婆は之を用ゐませんから新式のものよりは危險であります。

以上の通り、其の傳染の道は種々でありますが、要するに其の原因は痳病でありますから、痳病にかゝつて居る人は、自己並びに社會の爲めに淸潔を旨として、其の傳染をさけねばなりません、痳病でない人も、充分に注意しなければなりません。痳疾の膿が危險であるばかりでなく、膿の中に居る、眼に見えない小さな黴菌が有害なのでありますから、我々の注意も從つて甚だ緻密であらねばなりません。そして、不幸にして其の一方の眼に毒を受けましたなら、直ちに健康な方の眼を密閉して、其の傳染を避くる事が必要であります、然らざれば、兩眼共に失はねばならない事になるのであります。　(終り)

口のたしなみ（續き）

H、K　君

紅い唇に眞白な齒並は色彩の配合が誠に綺麗で顏の美を添える事は少くありませぬ、支那では理想の齒を瓠の種子に譬へ、西洋では『淸水の底なる小石の樣に眞白に淸く美しくあれ』などと詩にも歌つてあります、美しい齒と云ふのは眞白で細く齒並も綺麗に揃つて居なければなりませぬ、御婦人の齒は男子のに比べますと幾分か小さく、只前齒の眞中にあるのだけは男子のよりも少し許り大きく、微笑む折には白く見立つて一層美しく愛嬌深く見えるのであります、齒並を美しくするには乳齒の時代から母なる方の周到なる注意が必要であります、乳齒が後から生える永久齒の發生を妨げ其爲めに齒並みが亂れる

様な場合には不得止其乳歯を抜去るのですが、そうでない場合には成るべく放置つて置て乳歯の根が自然に吸収せらるゝか或は獨で脱落するのを待つ方がよろしい、歯並は細い歯がお互の間に隙間を殘さぬ様に密接して並んで居るのがよろしいが、夫と同時に歯齦からは殆んど水直に近い様に生出て居なければなりませぬ、夫れが顎の骨がずつと前に突出て居ると所謂反歯となつて之も餘り見良いものではありませぬ、又歯を噛合せた處では、上の歯列が少し前方になつて下の歯列と出逢ふのが普通でありますが反歯の甚しいのや下顎の骨の小さすぎるのでは、上下の歯列が行違つて出合ふ事ができず、從て物を食べるのに甚しい不都合を感ずる様な例もあります、併し前にも申上た通りこれも或程度迄は手術をして治す事ができるのですから、歯列の悪い方も一度は醫者に御相談になつたら或は美しい歯並に直す事が出來るかも知れませぬ。

歯の色は一寸見ますと眞白な様に考へられますが、西洋の有名な歯科醫の説によりますと實は心持ち黄色若くは青味を帯て居るのが普通で、其證據には入歯をする折に餘り純白な歯を挾むと夫が非常に目立つて口元の美を損する事が少くない相であります、夫で歯の色と申しましても人々により多少の相違がありますので、西洋では夫に應じて義歯の色合に就て大層綿密な研究が積れて居る相であります、歯の美に大切なのは、上に申した様な色合と其外に一様に光澤を持つて居る事であります、而して歯の色澤をよくするには如何しても毎日の手當が大切であります、其手當が行届きさへすれば色澤も如何なにでも美しく夫こそ眞珠を並べた様になるのも容易な事であります、我國でも鐵漿や五倍子で歯を染めたりなど致しまして、其化粧には古からも少からず注意を惹たものと思はれますが、近來特に其手當に就て注意をする様になりましたのは、一つには歯其物の衛生に氣を附ける様になつたのでもありませうが、又一方では追々肉食の風が盛んになるに從ひ歯の悪

くなる事が甚しくなつた故でもありませう。
歯を清潔にするのに最も普通なものは歯磨粉であります、歯磨粉に就ての注意は皆様も既に充分御承知の事と存じますから別に茲には申上げませぬ、只粉末は極めて滑かで細く、水に混せれば悉皆溶けて仕舞ふものでなければなりませぬ、又歯のブラシも、餘り硬くも柔くもなく丁度よい加減のものを撰び、之で歯の裏表を横にも縦にも丁寧に摩擦るのです、中には歯の表ばかり丁寧に擦りながら裏の方はとんと磨かぬ方がありますが、恁云ふ方では歯の裏の凹い面に一面に黄い歯じほが積り積りて、更に夫に石灰や何かゞ沈着して終には硬い黄い歯石と云ふものになります、是は只歯の見えを悪しくするのみならず蟲歯や何かの始まりに成り易いものですから時々醫者に就て取除けて貰ふ必要があります、夫から一度使つたブラシは直ぐに百倍の硼酸水で毛の所を充分洗つて能く水を切り、硝子の罎か何かの内に入れて成るべく日光の當る處に置くのがよろしいのです口の中には様々の黴菌や汚物がありますから、さう云ふ物の挾つた楊子を濕つた儘で日光にも當らず翌日又其儘で使ふのは極めて危険であります。
歯磨粉に次で廣く用ゐられるのは含嗽劑でありますアメリカあたりでは初め微温湯で含嗽をし後で再びリステリンと云ふ藥でもう一度うがひをする習慣になつて居ります、其他薄いアルコールも口中を爽かにし且つ歯を清潔にする力があります、又パイロゾーンと云ふのも口中に防腐の働きをなす許りでなく其外に黄く色附いた歯を白く晒らす働きがあります猶最も廣く行はるゝのは次の液であります。

ラバンドラ精	九十五瓦
サツカリン	一瓦
ミラ丁幾	五瓦
薄荷油	三滴
オイカリプトス丁幾	二瓦

此液の十乃至十五滴を大コップに凡そ半杯位の湯に滴らして夫れで含嗽をするのです。

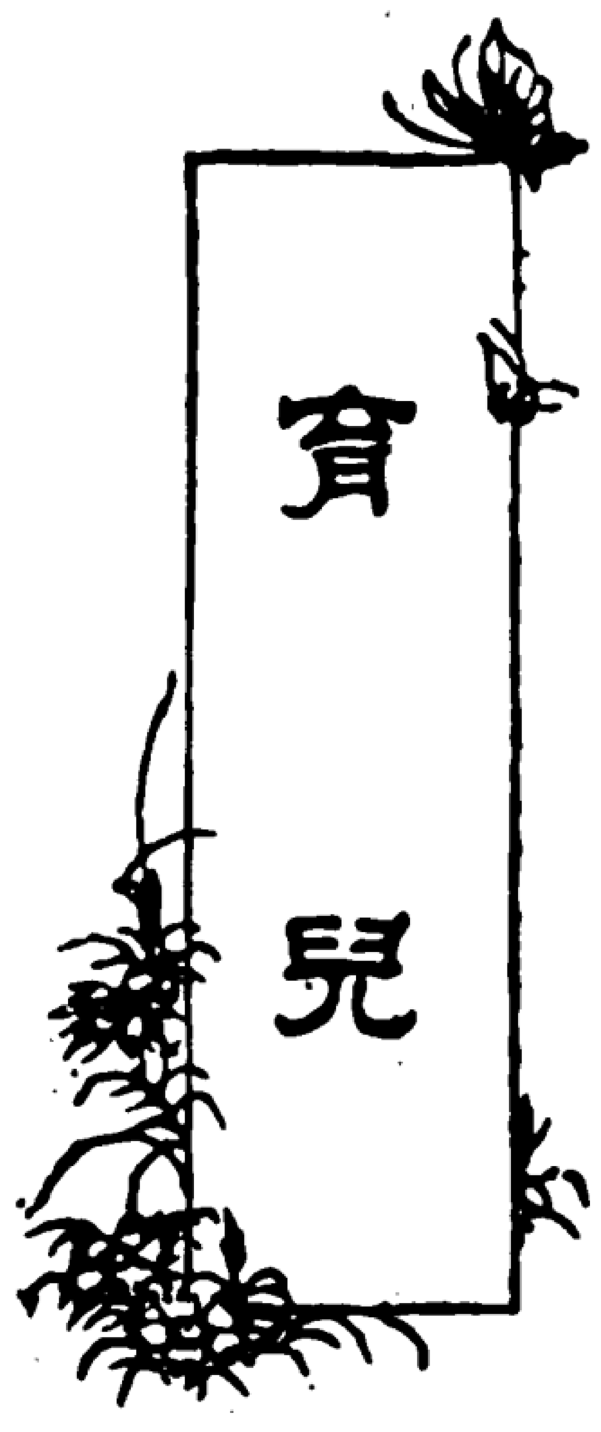
以上に申述べた樣に齒磨や含嗽劑を用ゐて始終齒を淸潔にして居れば、決して蟲齒や何かが起る氣遣はないのであります、但し齒は一寸見た處では如何にも丈夫相に見える物ではありますが、實は案外脆弱なるものでありまして餘り熱い物や冷い物を急に食べたりする時、或は砂糖や澱粉が唾液と一所になつて出來る乳酸と云ふ物が長く作用するには、遂には齒の表側の琺瑯質を壞はして仕舞つて蟲齒となるのであります、蟲齒の痛みは實際に之を經驗しなければ分らぬと申す位であり、又私共の生活力思索力を宿す頭腦と顎骨の中に並列して居る齒の神經とは極めて近い關係がありますので、從つて蟲齒が其方の氣分や容貌に及ぼす力も是又侮り難いものであります、其外蟲齒があれば食物を充分に消化す事ができず、又蟲齒の爲めに舌が始終摩て傷ができ夫から恐ろしい病氣が始まる樣な事もあります、其他又空洞になつた蟲齒の穴から不潔物が進入して上顎の骨の穴の中に澤山の膿が溜つて、其爲に鼻が惡くなり耳の聞えが惡くなり仕舞には目にまで障りが起る樣な場合もあります、最も多く見るのは下顎に蟲齒があつて其空洞から黴菌が入り込み、其部分が化膿して遂には外の方に破れ、夫迄は豐かに美しくあつた顎に生れも附かぬ傷ができるのであります、而して其齒を拔去らぬ限りは絶えずじくじくと膿を泌すのです、蟲齒が單に痛む許ならばクレオソートかコカインとかを塗つて一時の急を凌ぐ事もできますが、其外に前に申した樣な重い病氣となる事が有ますから若し蟲齒ができた時には一日も早く醫者に就て夫を拔くなり塡めるなり適當の手當をなさらなければなりませぬ。

中には亦齒には別に異狀がなくても只齒齦が膨れて押すと容易く血液や膿の出る方がありまする、之は齒齦炎と云つて隨分多い病氣であります、之を豫防するには楊子で齒を研く折に齒齦を軟かく下に擦りさげて血行を良くし抵抗を強くすればよいのです、又此病氣がありますと始終口中に熱を持て口が臭く

た針金に脱脂綿を捲き附け之をそつと鼻腔に押入れ螺旋を逆に回しながら針金を拔き取り、綿球は二三時間其儘にして置くのです、すると後には厚い結痂が濕つた綿に附著て出て參ります其際綿には藥も何も附けなくてもよろしいのです、そして其後をば上に擧げた液で洗滌するのであります。

猶此病に對しては上の法の外に鼻の粘膜を強い電氣で燒灼く樣な方法もありますが其成績は餘り確かではない相であります。

（終り）



育兒瑣談（其二）

H、S、君

（二）小兒榮養の事

乳兒のためには、母の體内で製造らるゝ乳に優る榮養品は無い。寔に母の乳は天下の最良品で、價もある意味に於ては、頗る安く、且つ最も單簡である。

人工榮養とは、母の乳を得難き場合に於て、他のこれに類して、乳の作用をなさしむるもの例へば牛乳小兒粉などの類であるが、今この人工榮養によつて育てられて居るこどもと、母乳によつて育てらるゝこどもとの體量を比較して見ると、明かに其關係がわかる。（後段の表を見よ）。

卽ちどの位人工的に工夫をこらしても、今日では、母の乳に及ぶものはない。

母の乳には、小兒が、年と共に生長して行くに、最も都合の好い樣に榮養分が調合されて居るので、其成分含有の比も、誠によく出來て居る。

それであるから、生母の乳は、こどものために理想的榮養で、どれ丈け人間が苦心しても、これに匹敵するものを造ることが出來ぬ。たとひ其成分の同じものを造つても、其作用はこれに及はぬ。

して見ると生母が、生みの子を完全に育てあげるべきためにうけた處の天與の賜である。
右の如くであるから、母乳で育てたこどもは、人工榮養で育つた小兒よりは、强壯で、元氣で、そして發育、成長も早い、病氣にかゝつても割に早く治る胃腸を害することの少いのも無論である。
また母乳は、人工榮養品のごとくに、不潔物若しくは、古くなり、又は病原菌などを含む場合が少いから、從て病氣になる事が尠い。
右は普汎な處を述べたのであるから、もとよりとりのけのある事を忘れてはならぬ。
それ故、折角最善至良の母乳を、こどもに與へて居りながら、其注意の足りないために、不慮の禍を醸すことがある。(授乳者の注意は次號を見よ)。
まづ最初に、時間的に習慣をつけて從くのが良い、卽ち先づ初めは、二乃至三時間每位に、授乳して、夜間は、與へぬか、又は一二度與へるにしても、追追は、與へぬように習慣をつけるが良い。

晝と雖も、成長するに從つて、授乳の度數を少くするやうに努め、若し、これに何か障りのある場合には量を少くして度數を增しても好い。
普通健康な小兒では、九ケ月か十ケ月或は十二ケ月位まで授乳をさせてよろしい。晚くとも十五ケ月を度させねばならぬ、何ぜかと言ふに、母乳の成分は益々稀釋くなる上に、其量も減ずるに引きかへ、小兒の方では、日進月步の勢で發達しつゝあるのであるから、それ丈けではならない、漸々固いものに馴れて、胃を丈夫にしなければならぬからである。
乳離れは、突如に行はず、徐ろに行ふをよしとす。夏夏あれば、消化の障碍を起し易いから、涼しくなるまで延す方がよい、初めはまづ牛乳をうすくしてその中に砂糖を加へ、遂に純牛乳を與へ又は乾酪牛乳などをも用ひ、其外、重湯、肉汁などを與へ、消化の度を見て、其量を增して行き、次第に卵、パンの粥、小兒粉などを與へ、三四ケ月のうちには、全く母乳をとらぬようにするが良い。

人工榮養のことは、追て別に述べやうと思ふ。
今人工榮養と母乳榮養による體重の比較表を掲げて見ると、次の如くである。(ケルレル氏による)(表の數は瓦なり)。

小兒の年齢	母乳	人工榮養
第一週の終	三四〇八	三三一四
第二週の終	三五六七	三三八四
第四週の終	三九九五	三六九三
第八週の終	四八一八	四三〇七
第十二週の終	五五四六	四九〇五
第十六週の終	六二二五	五五三四
第二十週の終	六七八八	六二二二
第二十四週の終	七三二〇	六九〇〇
第二十八週の終	七七六七	七二八三
第三十二週の終	八一四七	七七二九
第三十六週の終	八五八六	八一二三
第四十週の終	八八五九	八三二八
第四十四週の終	九二〇九	八六九五
第四十八週の終	九五二六	八九一四
第五十二週の終	九八六二	九二二八

此表を見る時は、兩者の關係が判然とわかる、自分が産んだこどもを自分が、育てるのは、母たるものの務であるが、世には此貴い天職を忘れて、乳母に託し、甚しきは、牛乳等の人工的榮養に委して、恬然として顧みず、斯くて社交を叫び、斯くて美貌を繕ひたればとて、どれ丈けの利益ありや。母たる人若くは母となるべき人々の深く注意を要する處である。

家庭衛生

看護の事(承前)

醫學士　河野衛君述

實扶的里亞

實扶的里は、病院に入つて、治療を受けなければならぬものでありますから、家庭に於て、看護すべき事柄に就て御話し申す事は、尠いのですけれ共、中

中恐ろしい小兒の傳染病でありますから、少しく申し述べて皆さんの御注意を煩さうと思ふのであります。

實扶的里は、「ヂフテリア」菌といふ一種の黴菌の爲めに、起る病であつて、其細菌は、咽頭、扁桃腺に生活し、此所で所謂義膜—白い斑點が出來、大くなると、一面に可なり廣い間に白い膜が出來て來ます細菌は、玆で自己の身體から毒を産生して、此毒は身體の血行に依つて、全身に廻り、中毒症狀を呈して來るのであります、咽頭は、此時赤くなつて、大變に腫れ上つて來ます、それ故に、始め熱が出て嘔吐を催し、咽頭が痛み、食物を嚥下するに故障が起り、食慾も減じ、日中何となく勞れたやうになり遊戯を好まず、夜分の眠り方が惡るくなつて來ますそれから、此咽頭の實扶的里が、鼻の方に來ると、盛に鼻汁が出て、而かも其鼻汁は、膿の如くになり遂には、鼻から血の出る事があります、小兒の鼻汁が盛に出て、其上血の出るのは、餘程注意しないと往々實扶的里である事があります、此鼻の實扶的里は、性質が惡くあります、それから、鼻の實扶的里の時は、鼻汁の爲めに、鼻孔から口唇に掛けて、一面に皮膚がたゞれて赤くなり、ひどい疲痂を造つて何時迄經つても、治りませぬ、普通の鼻汁では、先づ斯くの如き甚しい變化を起すやうな事はありませぬが、實扶的里の時は、著明であります、寒い時季には、一體に鼻汁のヨク出るもので、同時に、實扶的里も多うありますから、其邊に注意して居らなくてはなりませぬ、鼻血が出るから、鼻が惡いのだと言ふて、實扶的里である事を知らずに居て、其間に毒が全身に廻つて、重い症狀を呈して來るのは、稀では無い事柄であります、それから、鼻孔の附近にひどい爛れが出來て、疲痂が出來て、容易に治らぬのを其儘にして居るものも尠くありませぬが、實に恐るべき事であります、これから、實扶的里が咽頭から、下の方に進んで、喉頭、氣管の方を侵して來ますと、症狀は、一層慘烈になりまして、此時呼吸

が大變に苦しうなつて來ます、喉の所にヒユー〳〵といふ音がして、一見すれば、呼吸の道が狹くなつたのであるといふ事が明かに分ります、此時聲がかれて、後には遂に、少しも聲が出なくなつて來ます此時胸の上部と、上腹部とは、呼吸の度每に强く凹沒し、顏色は、蒼白になり、進んで來ると、口唇に紫色を帶び、汗が顏一面に出て來て、脈搏は不正となります、始めは、不安の狀態となり、苦しみ悶へますが、後には、著しく衰弱して來て、遂には、炭酸中毒の爲めに死んで了ひます、斯くの如くに、呼吸の苦しくなつて來るのは、如何なる譯であるかと申すに、是れは、喉頭氣管に義膜といふものが出來て、其上に、粘膜組織が腫れ上るが爲めに、呼吸をする管の中が狹くなつて來るからであります、そうなると、實扶的里の病毒の外に、空氣が肺臟に入つて、瓦斯交換が充分に行はれぬ所から、遂に炭酸中毒を發するやうになるのであります、斯くの如き極度の苦惱を救ふには、氣管切開術を施すの外はありませぬ、氣管切開術といふのは、氣管の上部に、穴を明けて、之れに、金屬製の管を插入し、是れから呼吸を營ませる方法を謂ふのであります、此氣管切開術を時機を逸せず行ふ時は、呼吸が充分に出來る所から、直に顏の色も良くなり、脈搏も佳良となり是迄不安で悶へ苦しんだものも、須臾にして、樂になり、安靜となります、そうして若干日の間此穴から呼吸を營まして居る間に、病が次第に輕快して來ると、此管を拔き取つて、前に切り開いた穴を閉塞して置くと、段々に切口も癒えて來て、元の通りに樂な呼吸が出來るやうになつて來るのであります、此氣管切開術を施して、管を氣管に插入してある時分には、看護の法則として、必らず一人病兒に附添ふて居るものが無くてはならぬのであります、何となれば、子供が、自分の手で、此管を拔いたり抔する危險があるからであります、それから、氣管切開をやつた後には、ヨク氣管枝炎、進んでは肺炎を起して來ます。

凡て實扶的里に罹つた小兒には、臥牀安靜を守らしめ、直に血淸の注射をするのであります、此血淸の働きは、確實なもので、機を誤らず、早く注射すれば、確實に奏效するものであります、そうして、頸には、濕布を施し、或は、氷を附けて置いて、矢張り吸入を行ふのであります、殊に、氣管切開をした場合には、度々吸入を掛けるのです、それから、室內空氣を淸潔にし、乾かないやうにするのが第一に肝要であります、氣管切開をやつた後は、談話を禁じ決して色々な事を話し掛けてはなりませぬ、それから、管の口へは、濕つたガーゼを當てゝ置いて、空氣が直接に氣管內に入らぬやうにしなければなりませぬ、それから、口中を淸潔にするのも大切であります、實扶的里をやつた時には、ヨク腎臟炎を併發するものでありますから、食物は、始めから、牛乳、粥、牛乳で煮た粥にして置かなければなりませぬ、患者の用ひた布片杯は、直に燒き棄て、其他のものに對しては、嚴重な消毒を施すのであります。

實扶的里に罹つた後には、麻痺といふものが來る、是れは恐るべきものであります、例へば、乳を飲むと、鼻から流れ出る、或は、ムセて咳をする、或は聲が鼻聲になる、或は手足に麻痺が來て、利かなくなる、甚しきに至つては、心臟の方に來て、心臟麻痺で以て斃れる事があります、それ故に、病牀に居る間は勿論の事、治つた後にも身體の動搖といふ事を愼むべき事柄であります、以上ザット申し述べました如くに、實扶的里は、恐るべき傳染病であつて咽頭、鼻、喉頭氣管の方を侵し、病中に腎臟炎を發し、治つた後には麻痺といふものが起つて、遂には生命を奪はれるやうな事もある恐るべき小兒病であります。



質疑

問● 私事本年二十四歳に相成り二十二歳の時結婚いたし良人は至て健全の方に御座候得ども私は今より十二年前に腹膜炎に罹り候處醫療により三ケ月計りにて幸に全快いたし引續き養生をなし居り候故にや其後は健全にこれあり候へども本年二月の初めより不圖子宮内膜炎にて腰痛、肩の凝り頭痛及び白滯に煩み候へば直ちに大學醫院に診察を請ひ療養いたし居りしが此程漸く全快いたし候へども私の子宮の位置が後の方へ傾き居り候故之を療治するにはお腹を切て手術を致さなければならぬとの事に御座候へども今は病氣は全治し居り候につき良く攝生をなし居れば幸に妊娠を致し候へば子宮の傾きも段々良き方に向ふならむとの趣きに御座候へども右攝生及療法を何卒委しく御教示下され候樣偏へに願ひ上げ奉り候

十一月十一日　東京會員某女

答● 多分子宮の後轉や後屈症であらうと考へられます然かも後轉後屈とて其度に輕重があるのみで全然異なつたものではありませぬ、本症の起るには先天性と後天性とありまして多くは後天性で最も多き時期は妊娠期分娩期産褥期であります亦夫れ以外にも之れあるは屢〻遭遇する處です例へば子宮及び其の附屬器の疾病彼の子宮實質炎、内膜炎等の結果子宮後壁の萎縮と同時に前壁の延長に因る場合亦卵巣の腫瘍骨盤内結締織の炎症の結果に因る萎縮等其他腹腔臟器の種々なる疾病に於ても見得るのですが貴女は曩に子宮内膜炎と云ふ既往症を有つて居るのですから原因は其結果に基くものと想像されます、本病の療法としては矯正術であります即ち後傾しある子宮をてし常位に整復するのですが是れは仲々困難な事で大學醫院で

云はるゝ通り手術を行ふのが確かに理想的です然しながら本病の大多數は慢性のものでありますから本病者で毫も苦痛を感ぜず又其他の障碍を起さずして偶々一回の妊娠に因て子宮の自然的整復を見たる實例は屢々ある事なれば此點は右に注意を拂ふべきであります故に是等の幸福を望まんとせば宜しく一般衛生法則に從つて身體の清潔適當の滋養强壯法、其他過度の勞働を避け殊に房事等に注意し適宜の運動を執り身伸共に安靜なるが何よりの療法です、併しながら若し異常の苦痛を感じ又は月經の障碍、受孕に關する障碍を釀すが如き事ある時は直に專門醫師の診療を受け適當の所置を依賴さるゝ事肝要であります其他の攝生法としては下腹部の按摩も適當でしよう其目的は後屈して居る子宮を前方に向ふ樣に按摩するのです是れは褥中又は入浴時に於て自から之を行ふ時は往々にして奏效する事があります其他「ぺつさりうむ」を插入して置く法もありますが是等は素人には仲々困難です尚茲に注意するのは子宮内膜炎は往々再發の恐れがありますから愼重の態度を取て常に前記の攝生法に努めねばなりません。



○新種痘法の不備

新種痘法の内容について刀圭界には早くも種々の論難あり今其專門家の概觀的批評を左に紹介せん

▲效力なき委任者　細評は暫く措き新聞に現れたる條文を見るに恰も小學校令に於て義務教育の責任を市町村に負はせし如く種痘の責任をも市町村長に委したるは素より贊成なるが同時に未成年者の種痘の責任を保護者又は雇主に負はせ是にて種痘を普及せしめ得ると信ずるが如きは抑も迂なり種痘は是等責任者の外實行手段に十分の取締法を設けざれば縱

回改正を重ぬるも五十歩百歩なり然るに新法案には責任の規定の嚴なる割に肝腎の實行上の穿鑿に缺けたる所多きは遺憾なり。

▲年齡規定の不完全　第一に生後一ヶ年以内に種痘せしむるは現行法も亦同じ去れど新法案には第二期、七歳第三期十二歳とあり舊法によれば第二期五歳より十歳、第三期十歳より十四歳迄なれば結局新法案は二歳を減じたるものにて十二歳以上は全然放任主義なり是れ大に危險なり現に去三十年の流行に見るも少數ながら六十歳前後の患者あり總數六千百六十人の内十五歳以上二十歳の男女千九百五十六人二十五歳以上四十歳迄一千五百八十四人ありて却つて十五歳以下より遙に多數なりし例あり本年の春も十五歳以上の者に尠からざりしに新法案が義務年限を單に十二歳以下に規定せしは多分獨逸の法案に則りしならん、同國規定の法案は第一回生後一年以内第二回十二歳とあり其の以後は男子に限り徴兵適齡の際之を行ふとあるが右は一八七四年卽ち我明治七年の制定と云ひ我邦と國情を異にせる彼之に則るは其意を得ず、獨逸は天然痘多き露國に接せるも我邦は露國以上の病源地なる韓國及び淸國に隣して一層危險なれば獨逸以上我邦相當の規定を造らざるべからず獨逸に倣ひて十二歳以下に止めしが如きは實際を顧みざる規定なり。

▲年長者と種痘　政府が三十年貴族院に提出せし改正法案にも十二歳迄とあり今回も亦同年に止めしは何故にや獨逸の如き十二歳制度にて決して流行を見ずと誇れるも實は多少の患者は絶えず又同國人とて他國にて罹る事あり現に昨年四月神戸にての初發患者は在留獨逸人ウヰリヤム、ロイステルとて四十五歳の男なり是によつて觀るも十二歳以上義務年限の伸長を要す。

▲病氣事故の取締　元來種痘は手術者の責任あると同時に人民も之が必要を感ずるに至らざれば眞の完全は期し難し現今の狀態にては病氣とか事故とかにて種痘の延期を申出づる者多し是れ一種の忌避な

り十分取締らざるべからず現行法には屆出の形式的規定あれど新法案には何等規定なし成程病氣の際種痘するは素人は一寸有害の如く感ずれど醫師の實驗上毫も害なきを證明し居れり肺炎の小兒にすら種痘は何の障碍なし況んや氣管枝とか腹痛下痢位の患者をや非常に危篤なる者の外は悉く種痘を勵行すべし那の鹿兒島の代議士宇都宮平一氏が肺結核にて入院中三十年の流行に際し終に天然痘の爲死去されしは幼時天然痘に罹りし故大丈夫なりと云ふ理由と肺病の爲めとにて種痘せざりし故にて氏の罹症死去により右の二理由は全然破壞されたり斯る次第なれば病氣又は事故の爲め種痘を怠る者には或る程度迄相當の制裁を要す、新法案に此の規定なきは大なる缺點なり。

▲施術者と流行時　新法案には何人が種痘術を行ふかを規定せず大體醫師の職務たるは明かなるも規定なき以上は何人がするとも勝手にて隨分放任主義ならずや本年春の流行時にも理髪店の主人が手術した珍談あり又地方にては松葉を以て自ら種痘せし者あり是が爲に身體に意外の害を來すも夫は種痘の爲めと思ひ施術の如何を悟らず結局種痘は危險なりとの觀念を起して普及の妨碍となる、即ち施術者は醫師に限ると云ふ事を訓示せられたし次に流行時に對する臨時種痘は是亦强制的に六十歳迄とか範圍を明示して一層切實に種痘の必要を悟らしめざれば兎角此年になつて馬鹿々々しいなどいふ謬見を抱きて種痘せざる者多し。

以上の外痘苗の規定も缺けたり要するに此種の法案は實行家たる刀圭界の意見を採りて充分實行上の完備を期すべきなり又義務年限を十二歳以上に伸長するは市町村の負擔に堪へずといふ僻論出づるやも知れねど昨年末より本年春の流行中東京が支出せしは二十萬圓なれど内十八萬圓は收容所の建設費に充て實際種痘勵行に要せしは僅々一萬圓に過ぎず況んや流行期以外の定期種痘に何程の入費を要すべきや吾人は今回の改成を喜ぶと同時に一層時宜に適した

る法案の成立を望むものなり。

○種痘法案は委員附託

中央衛生會議は去る十日午後二時半より内務省に於て開會、會長石黒男以下各委員二十八名の出席あり先づ諮詢案たる玩具著色取締法改正案を討議したるが學術上更に審査を要すべき點あるを以て田原博士外六名の委員付託となり次で當の重要問題たる種痘法案に移り窪田衛生局長改正の理由を説明し委員より二三質問ありたる後石黒會長の發議にて山根、窪田、青山、北里、中濱、高木、緒方の七委員附託とし來る十七日委員會を開くことに決定し夫より北里博士の由良に於けるペスト流行狀態並にケオピスに關する所見の報告あり午後四時半閉會せられたり。

○愛國婦人會員行賞

愛國婦人會々長岩倉久子以下の人々に對し三十七八年事件の功に依り三十九年四月一日附を以て左の如く敍勳並に金盃御下賜の御沙汰ありし旨去る十日發表ありたり。

敍勳四等授寶冠章　正二位勳一等公爵岩倉具定妻　岩倉久子
敍勳六等授寶冠章　奥村五百子
敍勳六等授寶冠章　故正六位中山信安妻　中山幸子
陸軍少將正四位勳三等功四級　佐藤正
敍勳二等授旭日重光章
從三位勳四等子爵岡部長職妻　岡部坻子
公爵近衛文麿母　近衛貞子
從二位勳一等子爵谷干城妻　谷玖満子
正三位勳二等男爵濱尾新妻　濱尾作子
從二位勳一等子爵清浦奎吾妻　清浦錬子
勳六等仁杉英妻　仁杉歌子
正三位勳二等法學博士山脇玄妻　山脇房子

明治三十七八年戰役の際盡力せしに付金盃一組を賜ふ

尙右と同時に石川縣支部以下三府十五縣の各支部へ金盃一個宛青森縣以下全國各支部へ銀盃一個宛孰れも下賜せられたり。

○三井家の慈善施療病院

去三十九年日露戰役が終へると三井家では戰勝記念として百萬圓を投じて之で何か社會的事業をしたいが何んな風にして使つたら好いだらうと豫て近親の

人々に相談した其結果は百萬圓全部を資本として東京の眞中へ慈善病院を建てることとなり昨年の八月から工事に着手し最早今月中に其建物は竣工する運びになれり。

其敷地と建物は初め三井では小石川の高臺へ建設する計畫であつたが恰度焼けた外神田の第二病院の跡が空いて居るので大學へ交渉して敷地を交換し此處に三千坪程を得て其焼跡へ建てることになつた交換した理由は同所は貧民窟の多い下谷、淺草、本所、深川等に近く貧民の爲めに便利だからである、病院の總建坪は凡そ二千坪で本館一棟病室三棟何れも木造の二階建であるが建築は却々立派なもので工事費だけに既に二十五萬圓もかゝつて居る又今年中に建築が竣工すると直に内部の設備に取りかゝる筈であるが其費用凡そ八萬圓、既に醫療機械の重なるものは外國へ注文してある由、手術室病室等は出來るだけ完全なものにする計畫で設計主任の福田氏は先頃から大學、赤十字、慈恵其他重なる病院の設備を研究し其長所を取つて之を折衷したと云へば頗る完備したもので、そして成る可く患者に快感を與へる方針で例へば病室のベットなども極めて堅牢な鐵製寢臺の上へ厚い藁蒲團を敷き其上へ清潔な蒲團と毛布を敷いて上へも柔かい蒲團と毛布を掛けると云ふ樣な工合に何れも充分な設備をするさうである此設備が出來上りて開院するのは來春の二月紀元節頃であるならむ。

入院患者の定數は百五十人、外來患者は毎日四百人位宛診察し得らるゝ豫定であるが入院患者の收容に就ては昨紙掲載の東京施療院でも其方針及び制限に困つて居る如く此慈善病院でも如何なる方針で貧民患者を入院せしむるか未だ確定して居らぬ兎に角出來る丈便利な簡單なそして公平な選擇をするさうであるが多分病室の許す限り憐れむべき患者を診察の證明位で許すことになるであらう勿論慈善病院のことだから入院患者も外來患者も金は一文も要らず藥も繃帶も無料なるは結構の至りなり。

院長は未だ確定はしないが多分田代博士が就任さる由にて其他の醫師は大學病院から來る筈であるそして院長が外科主任を兼ね内科の主任に木村博士が當り其他婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科等何れも適當な主任を得る筈なりとは喜ぶべし。

維持費は金百萬圓の中敷地、工事費其他に凡そ四十萬圓を費し後に六十萬圓殘つて居るから之を維持費に充てる豫算であるが種々の利殖法に依つて此六十萬圓から毎年凡そ五萬圓の維持費を得らるゝことが出來ると云ふ。

○百日咳の豫防法

百日咳は昨今の感冒と共に流行を見るが此百日咳は傳染性に發し其原因多く感冒に由來するものにして名の如く病勢頑固にして數月の經過を取るもの珍らしからず殊に此疾病は未だ特效藥なく醫師も只對症的療法を取るに過ぎず故に最も豫防法は肝腎なり第一皮膚が寒氣に對する抵抗力を强め衣服等は薄著になさしめ毎朝室內で微溫湯を以て頸部胸部足等を五分時間程づゝ規則正しく拭摩せしむ殊に小兒の感冒は多く浴湯後急劇の冷氣に侵さるゝ故に浴湯後は手拭を冷水に輕く絞りて拭摩し冷水灌浴は最も有效である又食物は可及的脂肪蛋白質に富む肉類、牛乳、肝油等を與へて身體の燃燒作用を盛んならしめて溫の製造に努むるのが有效である其他夜間は室內適度の溫度を採り若し發熱あるときは身體を成るべく溫暖に保ちアンチピリン、アスピリン、サリピリン等の解熱劑を與へ咳嗽あるときは二百倍重曹水の蒸氣吸入をなさしむ又屢々嘔吐を發する場合は氷片冷乳等を與へて衰弱を防ぐべし家族中に該疾患者あるときはなるべく隔離し小兒の接近するを避けしむべし。

○大學醫院の藥價

東大醫科大學は學術の進歩に伴ひ研究益々增加するに付藥價及び繃帶等の施用材料等實費の値上をなし之に由て約二萬圓の增收を得るの案を立て經理委員會にて決定し來年度より實行する事となれり。

大日本婦人衛生會記事

○本會十二月納會

本月五日土曜日午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校に於て例會を開き、先づ内野學士は「衛生瑣談」の題下に種々重なる疾病より傳染病に就て趣味津々たる瑣談を試みられ、夫れより金杉博士は「結核の豫防撲滅如何」と題して肺結核の最も恐るべき理由を獨逸國の統計を示して諄々と説き去り説き來つて終に結核治療院の事に及び貧民の結核治療院を設立せれらむ事を貴婦人の方々に希望を述べて降壇せられたるが、誠に有益なる講話にてありし、吾人は一日も速かに同治療院の設立を希望して止まざるものなり、傍聽者は約百五十餘名なりしが四時半閉會を告ぐ、又役員の出席者は左の如しご。

夫れより別席に於て本會の役員會を開かれ、來年の初會の事共を種々協議せられて無事散會されたり。

長谷川仲子　濱尾　作子　岡田　德子　石川　貞子
小川　幸子　濱田　捨子　高木　鉄子　鳩山　春子
田村喜代子　岡山とし子　三浦　秋子　松平　芳子
吉武輝枝子　岩下ゆか子　宮下　咲子の諸氏（出席順）

○鍋島侯爵夫人の清國漫遊

本會會長鍋島侯爵榮子夫人は去月二十一日薄暮大連に上陸せられ其夜官民の歡迎を享けられ翌日は大連市中及び公學堂附近を參觀せられて午後より旅順へ赴かる、翌二十日は奉天より北京へ出發あらせられたり、侯爵の一行は到る所に歡迎せられ日も亦足らざる有様なりし、曾て關東婦人會なるものありしより當東本願寺主の斡旋にて滿鐵會社の婦人團及び大連一般の婦人一團となりて侯爵の一行を歡迎せんとて關東婦人會にては役員會をも開き準備に怠りなかりしも侯爵一行漫遊豫定の日も切迫せられて御滯留なき由につき遺憾ながら此の歡迎會は中止されたり去りながら侯爵夫人の御渡連を紀念として茲に大日本婦人衛生會滿洲支會を設置する事になり既に假事務所を大連近江町田中氏方に置き目下著々準備中なりしが大連病院の博士學士等も皆々大賛成を表し殊

に佐藤ドクトルは大連病院へ赴任につき同夫妻も熱心に盡力せられつゝあり、同病院看護婦取締亦堀看護婦長杯も大に努力して斡旋さるゝ由なれば由來支會設立は遠きにあらざるべし必ずや來春は早々支會設置の運びに至るべし云々と本會の前編輯人なりし田中達三郎氏の近信に見へたるが同氏も我が衛生支會の設立に專ら奮勵盡力さるゝよし。

○鍋島侯爵夫人の歸京

豫て淸國へ漫遊中なりし本會會長鍋島榮子夫人の一行は本月三日恙がなく歸京せられたり。

○新潟支會例會

十一月二十二日午後一時より新潟高等女學校に於て當市婦人教育會と聯台の上にて例會を開き、此日出席せられし會員及び學生は約二百五十餘名にして講師及び演題は左の如しと

一戊申詔勅捧讀並に意義の說明
高等女學校長　森田　利房君

一出血に就て
醫學士　前田　侍三君

又當日の餘興としては先づ理化應用、魔宮の樂み、其他音樂及び種々の遊戯杯ありて近來稀れなる盛會なりしと云ふ。

○本會入會者

○事務所申込

●麴町區上二番町三六吳氏邸內　通常會員　黑澤松枝子
●府下北品川宇一本木四一八　通常會員　伊澤ひさ子
●下谷區　通常會員　鈴木うめ子
●陸奥國下北郡田名部町　通常會員　丸山よし子

○井深ろく子紹介

●深川區鶴步町三　通常會員　府川ちよの子

○石橋はや子紹介

●小石川區關口臺町音羽養生院內　通常會員　岩田もと子

○茨城支會

●　通常會員　小塙千代子

○轉　居

●府下荏原郡大崎町字谷山二四九へ　米倉芳子
●兵庫縣加東郡市場村へ　近藤こま子
●京城本町九ノ二十ノ二へ　安田こしか子
●筑前國鞍手郡直方町へ　槇倉照子
●麴町區內幸町內務大臣官舍へ　平田逸子
●本郷區駒込動坂町二一八へ　小林靜子

貧血虚弱性婦人及小兒に最も適切なる補血榮養强壯劑

（ドクトル チーデリツヒ氏新發明）

增血新藥 ブルターン

●ヨードブルターン●ブロームブルターン●キナブルターン

ブルターンの最も賞用するに足る特徴は高度の吸收及同化力を備ふると共に容易に消化せらるゝを以て貧血、虚弱者に對し奏效確實なるは言を俟たず健康體にして本品を服用すれば必らず其度を增加し榮養の狀益々良好に赴く殊に有害なるアルコール質を含有せず味佳良にして腐敗の恐れなく「アルブミン酸」並に「ペプトン」を多量に含有する等旣に多數醫學家の旺んに賞用せられつゝあり

（說明書獨逸文並に和文無代呈送す）

日本代理店

大阪市東區道修町三丁目

藥種貿易商 鹽野義三郎

電話「長」東五四二番

振替〇金口座一一七七三番

（後付ノ一）

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼れて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を着用すべし●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戶中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衞生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公選し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せす支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ケ月分以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

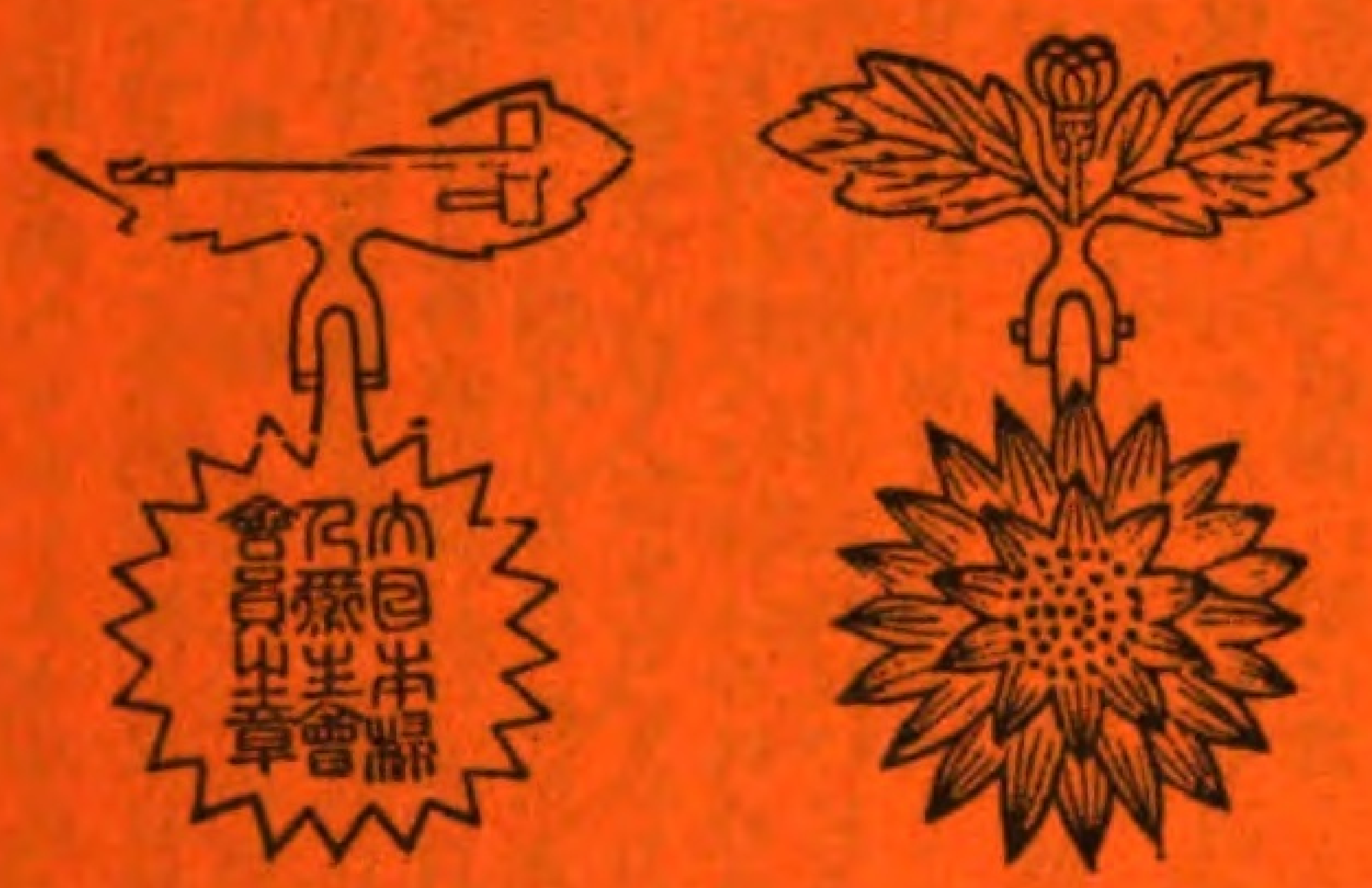
●事務所高崎市寄居町五十番地

高崎支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ



○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號
メッキ製拾貳錢、送費六錢
○第二號
正銀製四拾錢、送費六錢
○終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黒塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に、支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ケ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四円半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）
東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤諦之丞
東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

明治四十[illegible]印刷　[illegible]二十日發行（毎月一回二十日發行）　印刷所　東京市本郷區駒込[illegible]